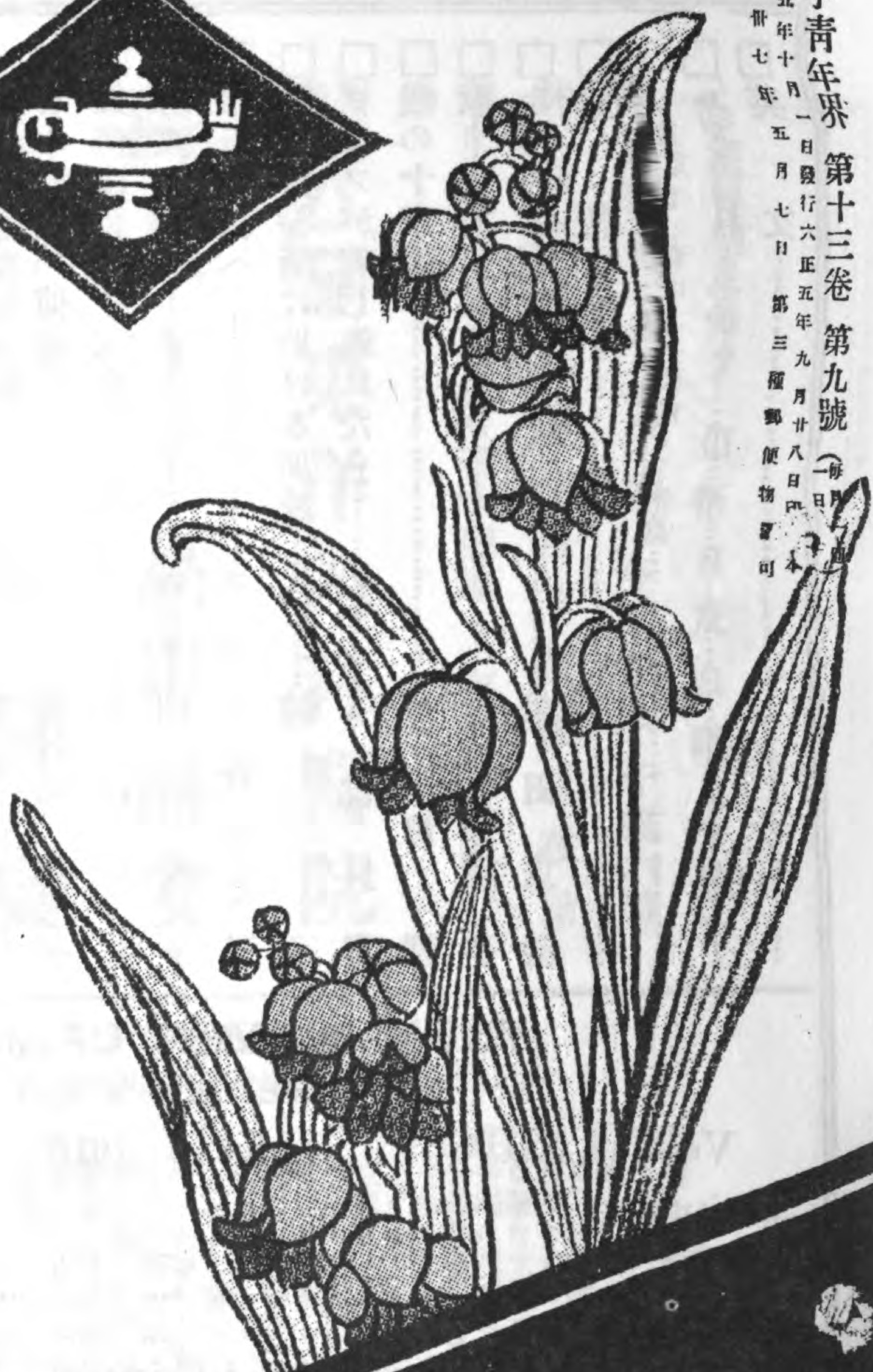
女子青年界 第十三巻 第九號（毎月一日…）
大正五年十月一日發行 大正五年九月廿八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界



第十三巻 十月號

要目

□歸朝の挨拶……河井道子
□生命に到る道……毛利官治
□日常生活に於ける淸潔……山室軍平
□犯罪防止と婦人……有馬四郎助
□日本婦人の傳道……長谷川喜多子
□如何に讀書すべきかな　にがし
□倫敦より……周防蝶子
□會員皆様へ……大谷ろく子
□銀の十字架……M　M譯
□小預言者……横田貞治
□彙報……
□おとづれ……

女子青年界第十三巻第九號

目次

□聖語 ……………………………

□歸朝の挨拶（會說）…………… 河井道子

□生命に到る道 …………… 毛利官治

□日常生活に於ける清潔 …………… 山室軍平

□犯罪防止と婦人 ………… 典獄 有馬四郎助

□日本婦人の傳道 …………… 長谷川喜多子

□如何に讀書すべきか …………… なにがし

□倫敦より ………………… 在倫敦 周防蝶子

□會員皆様へ ………………… 在米 大谷ろく子

□鵠沼休養所に於ける所感 ………… 楠子

□ヨセフが若し逃れたら ………… 一會員譯

□銀の十字架 ………………… M M譯

□歌 ………………………… 辻村靖子

□小預言者（總論 二）…（二）………… 横田貞治

□彙報 ……………………………
東京…青山…弘前…消息 ……………

□おとづれ ……………………………

□英文 ……………………………

YOUN WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII Octoder, 1916 Number 9

Scripture

Greetings .... Miss M. Kawai

The way to Life .... Rev. K. Mori

Purity in Daily Life .... Colonel Yamamuro

Women and the Prevention of Crime.... .... Mr. S. Arima

Christian Work for Women .... Miss. K. Hasegawa

How to Read

From London .... Miss Cho Suwo

To Association members.... .... Miss R. Otani

The Summer Camp at Kugenuma .... Kusuke

"Hands off" .... (Translated).... .... Rev. E. E. Hale

The Silver Cross ....(Translated) .... M. M.

Poems .... Mrs. Y. Tsujimura

Studies in Minor Prophets (2) .... Rev. S. Yokota

Miscellaneous:

Tokyo YWCA, Aoyama YWCA, Hirosaki YWCA

Letters

English Page

「診察毎朝及毎夕　但祭日及日曜之他」
院長診察　月、金、木、午前及木午後六時
林、峯間兩副長は目下當院に在勤
東京市麹町區三番町三十番地（市ケ谷見附內）
電話番町六二一番

東洋內科醫院

院長　醫學博士　高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ケ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察　土曜日午後　入院診後應需
「診察毎朝　但祭日及日曜又土曜日之他」

AMERICAN BILE SOCIETY
TELEGRAPHIC ADDRESS "BIBLES YOKOHAMA"

聖書と日常生活
—何處を讀んだらよい？—

□悲しい時には……ヨハネ傳十四章
□世人から見捨てられし時には……詩篇二十七篇
□罪惡に嘆く時には……同五十一篇
□心悶ゆる時には……マタイ傳六章自十九至卅四節
□禮拜の前には……詩篇八十四篇
□危險な立場に居る時には……同九十一篇
□憂愁に沈める時には……同三十四篇
□失望落膽したる時には……イザヤ書四十章
□成功を希ふならば……ヨハネ傳十五章
□心に疑惑が起つた時には……同七章十七節
□寂寞と恐怖に襲はれた時には……詩篇二十三篇
□感謝の念が乏しくなつた時には……同百三篇
□信仰が銷沈して來た時には……ヘブル書十一章
□失敗した時には……ロマ書八章自三十一至三十九節
□仕事に向つて一層の勇氣が必要の時には……ヨシユヤ書一章
□神よりも世界を大きく見る時には……詩篇九十篇
□安息と平和を希ふ時には……マタイ傳十一章自廿五至三十節
□强き信仰を欲する時には……ロマ書八章
□荒み或は批評的に傾ひた時には……コリント前書十三章
□祈禱が偏狹或は利己的になつた時には……詩篇六十七篇
□神の大なる御招きと機會とは……イザヤ書五十五章
□萬民の書は「聖書」であります。私達人間として讀まなくてはならぬ書物は「聖書」であります。私達の生活に必要缺くべからざる書物は「聖書」であります。總ゆる人々に取りて生命の糧となる書物は「聖書」であります。先づ讀んで神のみ心を識られよ。救主基督の生活に捫られよ。然らば諸兄姉は「聖書」の無限に貴き其の所以を知ることが出來ます。
□定價表御申越次　進呈

各國語聖書　發賣所
横濱市山下町五十三番
米國聖書會社
振替口座東京一八四一〇番

女子青年界

第十三巻第九號

（十月號）

大正五年十月一日發行

謙遜

謙遜りて主に事へ。　使徒行傳二十ノ十九

心を高ぶり思を過すことなかれ、神の各人に賜りたる信仰の量に從ひて公平に思念べし。　羅馬書十二ノ三

爾曹の中首たらんと欲ふ者は爾曹の僕となるべし。　馬太傳二十ノ二十七

爾曹命ぜられし事を皆行ひし時も我は無益の僕爲すべきことを行たりといへ。　路加傳十七ノ十

我儕この寶を瓦器に藏り是大に優れたる能は我より出るに非ず神の能なることの顯はれん爲なり。　哥林多後書四ノ七

人の子の來るも人を役ふ爲に非ず反て人に役れ又多くの人に代つて生命を與へ其の贖とならん爲なり。　馬太傳二十ノ二十八

會説

歸朝の挨拶

河井道子

桑港を一月十三日に出帆して十六日間極平穏な航海を續け横濱入港が三十日の午前八時でした。朝五時頃船窓から外を眺めますと最早東京灣内に這入て居りますので、同室なる邊渡百合子樣と子供の樣に飛跳て大騷ぎ、前夜詰殘した衣類を片付るやら、折角骨折て入れれば、又物品を理由もなく取散らすやらで、火事場のやうな騷ぎの最中へ、食堂で檢疫があるとの事で昇り行くに、未だ誰も居らぬ、又下へ降りて荷物を詰める、又上に出かける等の煩勞のみを繰返すも面白き一節でした。蒸暑き日本の空氣を暑苦しき狹き船房で玉なす汗を拭ひも得せず働き居る眞最中に、新聞記者が名刺を出して扉口に佇立し會見を求める。御職掌柄ゆゑの大膽と勤勉とには感服しつゝも、此混雜の場合とて御相手も出來ず、失禮して居る其中にも船は灣内へ徐行し何となく氣が急くのに、又も一人の記者が名刺を出して扉口に佇立の姿は、私共二人の犯罪人とでも見て警護せんと云はぬばかりに見え、氣の毒にもあり可笑くもあり終に甲板で御目に懸りますと斷つて、荷物を一先づ仕末して甲板に出つれば遙に横濱の波止場に人山の影が見え、其を船客が見守りて一層氣を急かせる樣でした。既に記者六名は御顏揃で質問の矢を飛交せましたが、平素早口が如斯場合には重寶で餘り喋々喃々が記者達に御迷惑の樣にも見受られました。給

仕が朝飯のベルは最う鳴りましたと云ふに氣づきて邊を見るに、自分の外船客は誰も居ぬので失禮して下りました次第ゆゑ、少しは相違した記事が翌日の新聞等に出ましたのも無理ではありません。食事など味なく早く埠頭を見んものと又甲板にゆくと追々人波の中に知人、友人の顔を見出す愉快さは、此經驗ある人でなくては理解ますまい。私は僅々一ヶ年餘り留守なれど、渡邊様は五ヶ年間留學されての歸朝とて種々雜多の感想が腦裡を往來した事でしよう やがて陸地からと船からとの大聲の會話が所々に起るも自然の勢で一歩も早くとの意氣込は誰彼の區別はありません。親切に遠近より早朝迎ひに來て下されし方々に私は挨拶も急遽にして同船なりし氣の毒なる病婦を俥に乘せて旅館まで送屆け、其より停車場で友人等に逢ひ東京驛に向ひました。其處にも青年會や學校の方々に迎へられ誠に嬉しく、只天候が暑さをもて歡迎を與へくれましたのは少々閉口致しました。二晩東京に送り用事を少しは濟ませ、富士の裾で待ち居る老母や友人の許に馳せ、數日を共に樂しく送り又上京して毎日多忙の中にも元氣に暮して居ります。早速諸姉より御祝電やら御芳書やらを頂戴して難有う御座います、一々御禮も申上かね、又近所のかた〲にさへ訪問申上得で居りますのを玆に御詫申上ます。

扨て在米中にも會員、會友の方々より御懇切なる御手紙を毎度戴きまして常に感謝してゐました。何より力強く存じましたのは私のためとて祈禱をして下さる姉妹が日本にあると申す感念でした。彼地にての忙さは日本以上と思ひし事も往々御座ひましたが幸にして恙なきのみならず、願ひし以上の良き經驗と學問をする好機會を與へられ、良友を與へられ、靈性の糧を與へられ、凡に耐ゆる健康を祝されたこと等は、何時も隱れし處にて姉妹方の祈禱のあればこそと、常に感じました。然れば元氣の沮喪した時などに、俄然に勇氣が湧き出でたり、惰氣滿々の際警戒の聲をきくなど奇蹟の外ありません。かゝる御

同情に浴したる私は幸福な人間と存じ皆樣に厚く御禮申上ます。

姉妹方の中には御異動の多くありし樣に存じます御慶事御不幸と糾ふ繩の如く、吉凶禍福交々味はれし方もあり、只に吉のみ只に凶のみに遭遇されし方もありますが、基督者の喜憂の標準は世の其とは異なる處がなくてはなりません。從つて至情には相違なくとも、只に愛する者の死去或は疾病、不成功、試驗點數の思はしからぬ等の事にて悲み亂れ、ヒステリや陰鬱病になど罹るのは我等基督者のなすべき處ではありません。又物質に於て智識に於て、地位に於てのみの成功を以て大滿足するも基督者の喜の標準ではありません。眞に悲むべきを悲み、喜ぶべきを喜ぶ經驗を得られし姉妹方には赤心より祝詞を申上ます。「神を愛する者には凡の事働きて、益をなす」とは大格言でありませんか。

偖、今同私の渡米に就て何のために渡米したかとの質問があらば私は大要左の通り御答致すのであります。

一、渡米移民同胞姉妹の日常生活を女子の立場より視察し、矯正改良すべき方面、助長すべき點を調査する事

一、米國基督教女子青年會の近況を實見し我國女子青年會の前途發展の途を考究する事

一、米國基督教々勢、傳道、教育、社會事業の一端を視察して參考に資する事

一、時間に餘裕あらば紐育女子青年會幹事養成所にて勉學する事

一、力に應じて日米婦人間に親善の途を擴張せん事

以上の如き事項で御座います、此等に就ての經驗や事實や所見は今後の本誌上に追々書き連ねる積であります、兎も角私は有益な愉快なる一年餘を送りまして元氣充滿して歸朝いたしました。今後は女子英學塾を辭して女子青年會に專務として働く積で御座いますから、此上とも皆樣の御同情と御助力とを仰ぎます、其に就ても私の不在中皆樣が陰に陽に共に

本會に御盡力下されし事を御禮申上ます、今や東京女子青年會の會館も出來上り、夏期修養會では長谷川、小此木、星野先生方を始め委員や、出席者協同一致の精神で此夏の如き未曾有の成功を來たし、本部の事業は澁滯なく運んで居りますは諸姉妹達の補佐に據る事が明瞭で御座ひます。本會は決して幹事や委員だけのもので御座いません、會員各自のもので御座いますから何卒之を愛護し之を完全に成育せしむるやう御助けを切にお願ひ申します。

米國では本會の會員、會友、同情者に諸所で遭遇ました、桑港の女子青年會は以前東京普連土女學校後に神戸女學院の先生でした伊集院秀子姉が幹事として活動され羅府では横濱の捜眞女學校出身の大谷ろく子姉が年若く土地に馴られぬにも不拘該地の女子青年會幹事で一ケ年は目醒しき働きされて病氣になられました、幸にも近頃は御全快に近き吉報で喜ばしく存じます。加州地方で青山學院、女子學院、共立女學校、山梨英和女學校、英學塾、神戸女學院、女子大學、高等師範、フエリス女學校などの出身の方々に澤山逢ひました、信仰のある方、信仰の眠れる方、物質界に齷齪して他を顧る暇なき方益々思想の狹隘になられし方、家事に追はれ心身共に純然たる田舍風になられし方達が、進取的の方や、眞個の献身犠牲を以て自他を救ひ、或は同胞の慰籍に努め、又は貧しても鈍せず漸々教育の眞光を輝されつゝある方等と同じ學校から出られしものかと驚くのは日本にて往々あるのと違はありません。是等を實見するにつけても今日の日本にある女子教育は心を用ふべき大問題と存じます。家事經濟、如何にも大切な女子の學問でありますが、其等のみをして精神上の教育を疎じたる姉妹方の渡米は危險なものであります或は只に英語が出來た、交際が上手だ、姿色が美しなどでの渡米者も危險なもので御座います、要するに日本にあると海外に往くとを問はず、私共女子は眞の教育を嚴なる主キリストに基するのでなくば到底長く保たず、人世の暴風雨に出會ひては破壞は免かれぬと存じます。御互に己を救けるのみならず人を救ける救命艇になり、家ならば堅固なる基礎の上に建てて安全を保ち度もので御座います。

生命に到るの途

牧師　毛利官治

馬太傳十六章二十一——二十八節參照

十六章の終りの言葉は基督が傳道を始めて以來凡そ二年許經た後此事を話された事と思ふ。時は丁度初夏の頃で一先づ一般の傳道を中止され專ら弟子達の教育に力を入れられ北ガリラヤの片田舍でヘルモン山の麓の山里近くを歷巡りつゝ御話をなされた既に二年間もエスの膝下で教を受けて居る故追々話の主意も分り殊更弟子の爲に盡力せられたので結果もよく弟子達の信仰も益々增すやうに認められた。基督は其教の大切なる事柄も話さんとするには如何にしても十字架の事を話さねばならぬ其處で弟子の樣子も最早大低此分なら分りさうだと思はれて此處に御自分の最後、十字架を彼等に打明けられた然し弟子達には餘程意外の事で大いに驚いた、ペテロはエスを止めて「主よ宜からず此事爾に來るまじ」といふ、其時エス彼を諭して十字架を解せずば我を解す能はず「若し我に從はんと欲ふ者は十字架を負て我に從へそは生命を保全せんとする者は之を失ひ我爲に其生命を失ふ者は之を得べし」と念を入れて御話なされた。此語は既に此會の標語とせらるゝ處である故に此精神に就ての決心及び之を今後如何に實行すべきかをよく會得して生活上に如何なる心掛をなすべきか一二の例を御參考までに申上げたい。

一體基督教は基督御自身を以て一貫して居るエス

により始と終とをなす故に基督御一生は基督敎である約言すれば基督の死が即ち基督敎であると言はざるを得ない、其爲めに主は弟子達を敎へるにも傳道中に如何かして之を理解さすやうにと努められた、基督敎よりいへば其敎の要領に入らんとせば初めより之を敎へねばならぬ此話が基督の大目的で是非之に集中すべきである、これ主の凡ての模範で又其力の源である然し此死が彼の生涯を通じて集中されて居る事が分る、水を酒に變へ給ふ事或は多の病人を療やし死人をも甦らす奇蹟等には皆世に對し人に對する尊い敎が示されて居る、人に對し自然界に對する其の趣味及び精神の表現は屢々現はれ大敎訓的の事に接しては必らず十字架を話された。考へれば建築家が技師の設計圖を職人共に示すやうなもので其初め圖を示し置き適當な方法にて理解させ方角を會得さすのである、これ最初の敎訓にして最後の目的である、人の生涯はこれ水の流の如く長く久し、その方向は分量により所々を流れてもその運命は既に源に於て定まり末は同じ海に流れ出づるのである、人には各々理想あり計畫あり、人が如何なる生活をなすとも行くべき道は一つである、その眞に志ざす處は何處にあるか、我々基督を慕うて其生涯を送る者は基督の精神と一致せねばならぬ、信仰の生涯に於て未だ彷徨ひ前途遼遠なりとも基督の精神に依つて行く時は最後の到着點は一つである、始終これを我々の身に當嵌むべきである是吾人の信仰生活であらう、此標語を見ても實に一點の餘裕もない。人は宗敎家は甚だ餘裕のある者であるといふ。聖人は世の推移に仰天せぬといふ、又儒敎によれば中庸を重んじ友と交はるにも益者三友損者三友等と敎ふ。然し基督敎よりいへばそれ友の爲めに生命を捨つるそれより大なるはなしとて我々友と交はるに於て肝要とする處である、世の中の様子を窺ひ都合の惡い時には引込み山に籠もる精神が儒敎にある即ち世の中の都合により自らを支配するやうである、然し世が腐敗すれば一層我々が清まり骨を折るべきで基督が

亂れた世の爲め十字架を負ひ己を捨て給ふたるは儒教と大いに違つた點である眞に道を守るならば基督の精神でなければならぬ、然し今日現代此精神薄らぐ樣に思ふ、狹き門よりは廣き門を入らんと欲し、黑ともつかず白ともつかず鼠色の生活をし實に不眞面目である。これ大いに注意すべき事で我々は祈の爲めに我々の生活の爲めに力を盡くさねばならぬ。

此語の意味は失つて得らる等とて商賣的である、神の惠は何い勳功なくして與へらるこれ眞であるが尊い價を拂ふ事も一方に於て考へねばならぬ、ペテロ一切を棄て汝に從へば何の報あらうと基督に尋ねた其時親兄弟及び己の有てる財產を捨てゝ我に從へば限りなき命を受くと基督は貴き物を得んと欲へばこれに價を拂ふべき事を強く仰せられた。商業界に於ても之を見るのである、今日多くの財產を作るに汲々として居るよりもつと貴き事に就き一層考へなければならぬ、近頃便利な安易な生活をなさんと努めて居る、出來ればそれを行ふのはよい、然し信仰の立場から我は如何なる所に力を用ふべきであらうか、我々の生涯の眞に價値あるものとせんには何をなすべきかこれ實に深く考ふべき事である、基督の御樣子によるに實にこの御方こそ神の御子なり偉大なり尊嚴なり而も十字架を負ひ給へり。吾人も亦斯かる御跡を慕ひて負はざるべからず、基督の弟子はエスがヘルモン山に於て話し給ひし事によりて偉大なる方よ思つて居たが十字架上に消えさせたまふとは如何に心細い事であらうと思つた、彼等は失敗のみにて意氣地なき事とのみ思つた、然しあの樣な榮光を放たれたのである我々の受くべきものも矢張日々十字架に從ひ十字架につく事である神の御子を眞に知る人なら十字架の生命を得其處に大いなる力を蓄へられるのである即ち失敗にして勝利あり、我々は兎角名譽地位を思ひ成功にのみ心をよせて若し思ふが儘に行かぬ場合には直ちに失望落膽す、然し信仰の生涯を送る事は力あり慰めある神の惠の下にあると思へば苦しみも樂しみに變じ善をなすに於ては

假令身は貧乏なりとも神の御旨を為す故大なる樂しみを感ず、世間の批評を神に止めず己のなす事を眞面目になす人こそ成功の人である世評を氣に懸ける美術家は發達せず、我々常に一生懸命なれば何時しか其精神は神より認められたとひ外見は如何なりとも内に善あり樂しみあり、平和あり、朝顔の花咲き風にたふさるとも花は咲く我々如何なる境遇に居ても其力を表はす、どうか基督により受ける生命でありたい、此言葉が數日間の覺悟である許りでなく將來の新希望を充たす爲の力あるやう神の惠を受けたいと思ふ。

（第十一回夏期女子修養會講演）

日常生活に於ける聖潔

山室軍平

聖潔即ち英語でいふホーリネスはホールネス即健全の義である。魂の有樣が無病息災にあるの意味で同じ事を不完全な私共が、神の惠によりて現在達し得る限りの完さにいたるよりして、之を「福音的完全」といひ、又は專ら神をたよりとして生くる上よりして、之を「信仰の生活」ともいふのである。又はじめは神と相觸れただけであつたものが、一歩進んで寢ても覺めても、自分の生活が神と一致するやうになるところから、之を「再度の祝福」ともいふ。或は愛なる神の靈に滿さるる所から之を「全き愛」ともいひ、尋常の基督信者の生活よりも一段高い世渡をする上から、之を「より高い生活」と名づけることもある。聖潔とは只神に見えまつるのみではない、神と偕にすむのである。神にふれるだけではな

い、之を心に迎へいれることである。其の御命令に從ふだけではない、之と合致することである。神の御旨をなすのみではない、神の御旨のまゝになることである。

マタイ傳の始には「その名をインマヌエルと稱ふべし、その名を解けば神われらと偕にあるとの義なり」とあり。マタイ傳の終りには「見よ我は世の終りまで常に汝等と偕に在るなり」とある。一度人の姿にて現れしキリストは、靈に於て世の末までも我々の中に宿りたまふ。ペンテコステの日に百二十人の頭の上にひとり〳〵焔火のやどりたるごとく、私共は銘々絶えず神と共に居らねばならぬ。この經驗はあらゆる基督者が、あらゆる時に有つべきものである。昔聖アントニーは神と偕に生きんとて、隱者のやうに山にひきこもつて居つた。或時神の御聲が響いて「アントニーよ、汝の聖き生活はアレキサンドリヤの靴屋の生活に劣つて居るぞ」と言はれた。アントニーはおどろいて早速アレキサンドリヤにいつて、其の靴屋をたづね、其の如何なる生活をなし居るかを問ふた。彼は答へていふやう「何でもありません私はただ神樣の御旨にしたがひてはたらき眞面目に神と共に歩むのみである。」此のごとく聖潔は之を日常生活の間に實驗すべき極めて實際的のものである。眞にクリスチヤンたらんものは、其の平生に思ひ、謀り、言ひ、また爲す所のこと、すべて皆神の御旨によるべきものである。量の大小は兎にも角にも、其の品質に於ては全く純粹のもの、神の御旨のまにまになつて居るものでなければならぬ。キリストの救の極致は即ち是である。靈のキリストと毎日の世渡を偕にすること、これが基督敎の本領、所謂日常生活に於ける聖潔とは即ちこれである。

無色透明と見える日光も、三菱鏡の下に於ては七色に分解するのであるが。恰度それと同じやうに所謂聖潔の經驗を靈の世界の三菱鏡にかけて見るならば、ここにも種々なる色彩を見出される。今其の重なるものを擧ぐれば、第一に聖き生活は即ち愛の生

活である。「心をつくし精神をつくし意をつくして主なる汝の神を愛すべし。又己のごとく隣人を愛すべし」とあり。また「我新しきいましめを汝等に與ふ汝等相愛すべしとのこと是れなり」と宜ふてある。聖き生涯とは即ちその愛の生活をすることである。愛の靈のやどるところ、一切の生活は凡て唯愛とならざるを得ない。げに愛は世界語である。萬國萬民に聞き分けらるべき言語である。ロンドンにて市立の木賃宿を見たことがあるが、四百人を宿せしむることが出來る。一ペニー(四錢)を拂へば、一人に一ッの鍵を與へて一週間自由に一ッの戸棚を用ひしめる。而してその四百の戸棚の鍵は全く他に利用が出來ない獨特の鍵で、合計四百種あるわけである。然るに他にただ一ッの親鍵があるそれは木賃宿の受持が携へて居る鍵で、それでばかりは四百の戸棚をことごとく自由に開くことが出來る。人生にもかくの如く只一つだけあらゆる人の心を開く親鍵があつて、それは即ち愛である。唯愛の人のみが能く愛の神を理解することが出來る。今の世に最も缺乏したるものは此の愛である。この眞の愛が家庭にも學校にも社會にも缺乏して居るのである。英國の或船長が航海先から歸るとき豫定より二日だけ早くかへり、レコードやぶりをしたとまでも賞讃せられた。しかも彼が歸國を急いだわけは、船長が其の愛する長女ローシーの危篤の報に接したことである。しかも船中誰一人此レコードやぶりの由つて來る所を解し得たるものはない。それは何であつたか、即愛である。凡て世をうごかす最大なる力はこの愛である。

第二に、この聖き生活を一面より見ればそれは祈禱の生活である。祈禱はクリスチャンの武具である祈禱は世界を動かす神の御手を動かすものである。祈禱は唯神に求むるのみならず、神に見え、神に聞き、其の御力を受け、其の御徳に化せらるることである。聖書には「斷ず祈るべし」とある。私共は折々に思出して祈るのでなく、毎日祈禱の生活を營まねばならぬ。即ち寢ても起きても、神に憬がれ神を望

む日常生活を營むのである。言を換へて云へば、祈禱の人となることが大事なことである。忙しいとて祈を廢したるその時間に他のものをもつて、埋合すことの出來るものでない。私共はまた聽き入られる祈の尊さと共にきかれぬ祈も亦尊いことを知らねばならぬ。神は人の祈禱を其のまゝに聞き届けるか、さもなくば祈りたるよりも更によい方法で聽く御方である。私共は又自分のためのみならず、他人のためにも祈らねばならぬ。神をしらぬ人のためにまたわが家族のために祈らねばならぬ。家族に傳道することは殊の外困難である。その父母にもの云ふ前に先づ眞實をこめて、そのために神に祈らねばならぬ此の如きいのりが足らないが爲に、神の御國の擴張がはかどらないのである。聖書の信仰あつき人物はみな祈禱の生活をなしたものである。アブラハムも祈り、ヤコブも祈り、モーセも亦祈つた。救主キリストはたえず祈禱をなしたまひ、使徒も殉教者も改革者も皆熱心に祈禱をつとめた。聖き生涯は即ち祈禱の生涯に外ならない。

第三に聖き生涯は信任の生活である。「汝ら思ひ煩らふところを皆神にゆだぬべし」。徒に悶え苦むことをやめて神にすがれ。神は暗きにも絶えず生きて居たまふ。二人の學生が或時植物採集に行つて、危ふき斷崖の中央に美しき一輪の花があるのを見、折しも來かかつた子供に繩でくくつて、上で確かりと持つて居てやるから、吊し下つて取つて呉れと賴むと其の子供は若しその父が繩を握つて居るなら行つてもよいが、さもなくばいやだと答へた。そのやうに私共は天の父の御手が私共を支へたまふ限り、どんな危險い處にも尙安心を抱くことが出來る。

第四に聖き生涯とは十字架を負うてイエスに從ふ生涯である。マーチンルーテルは曰ふ。「我は奇蹟を行はんよりは寧ろ服從せんことを願ふ」と。

第五に聖き生活とは又戰爭の生活である。天國は唯戰つて之を擴めらるべきものである。キリストはその先鋒にたちたまふて居る Blood(血)といふ字と

Bless(祝福)といふ字とは其の謂を同じくするさうである。其の如く人を祝福するには鮮血を注ぐことを要する。

第六に聖き生涯とは亦勝利の生活である。所謂「喜を以て惡に勝つ」とはこの事である。元來キリストによれる戰爭は必ず勝つものである。ウエリントンは「敗北に次で悲慘なるものは勝利である」といふた。此世の戰爭は勝つても負けても何れも悲慘なものである。併し乍らキリストによれる戰爭の結果は神の榮である。人の救である。パウロは「此死の體より我を救はんものは誰ぞや、是れ即ち我らの主イエスキリストなるが故に神に感謝す」と申した如く、私共は先づ己に勝たねばならぬ。斯くて後他人を罪と禍とより救ふことも出來るのである。ウエスレーはブラムエルと初對面の時「君は神を讃美することが出來るか」と尋ねた。私共は戰うて勝を得勝つて神を讃美し得るやうでなくてはならぬ。

私共は常にすべてこの聖潔の生涯をなすの覺悟がなければならぬ。

(第十一回夏期女子修養會講演梗概)

犯罪防止と婦人

典獄　有馬四郎助

私の話は餘り皆様に御爲にもなるまいかと思つて御辭退致しましたが是非にとの事で御受け致しました。話の中には要領を得ないやうな事もありませう何故なれば私の相手として居る者は彼の赤煉瓦に於て世の中の邪魔者とせられて居るものばかりで、さういふ間に居るので世の中の事は分りません。然し

話す事は悉く事實で、苦々しく思召すことばかりでありませうが、それは致方がありません。皆様の中に誰方も監獄に御縁のある方は無いと思ひます、萬一遠い〳〵御縁でもあれば多少の感興はありませう實に彼等囚人といへば憫然な者で、世間の人はあんな殘忍邪惡な行をした者故死んでも構はぬ、うんと苦しんで罪の報を受けた方がよいと思ふ方が多い。然し實際思ふと犯罪人は憎むべき者でない、實に同情すべき者で社會の人々に向ひ彼等には國民として同胞として許さるべき相當の理由があると申上げたい。

今日は必要上やつと出獄した者をも長々しく締め込み社會より放逐するのでそれが又犯罪を再びする樣になる、これ實に困つた事故政府は頻りに世の多くの同胞に訴へ保護せんと盡力して居るが、中々好都合に行かないといふのは相當の教育殊に基督教によつて育てられた方には分りきつて居るとしても、社會には大多數分りきらぬので困難なのである。然し近頃は一般的に進歩して來た事は事實である。

多くの人は彼の泥棒、放火、人殺等は實に荒々しい硬頸い者と思ふのが人情であるが、それは全く反對である。まづ犯罪人程弱者はない。さういふと不思議に思はれるかも知れないが、實際どの點に於ても弱い、克己の力が弱く誘惑に陷り易く、意志力がなく、心が荒くてするといふよりも戰々兢々として餘儀なく怖るべき罪を犯すのである。弱い武士は一番先に刀を拔くといふが、人殺は膽力がなくてまづ刄物を出すのである。かくの如くして犯罪人は世の負けた弱者となる。彼等が監獄の門を入る時一々由來を尋ねて改悔を勸めるが、何故此人間が此樣な事をしたのかと、我々專門の者でも不思議がる程、惡事をしそうもない顏をして居る。かくの如き者が規則の下に縛られて小さくなつて居るのを見ると、憎くは思はれず却て不憫だと見るのである。

今日本に何程囚人が居るかといへば出入がある故確實ではないが最近の統計で五萬人ある。それでも

餘程減じた方で、數年前は八萬人位あつたものである。其原因は有難いと申せば畏多くも恩赦である。皇室の御不幸或は御慶事の爲、減刑された者や全く赦された者があるからである。一寸挿んで申上げるがこの事を御記憶願ひたい。何れも監獄に入つて來る者は下層社會の者が多く、國民教育を受けても皇室に對する忠義の念が甚だ怪しい彼等は機械的に忠君愛國をきかされるか、實際恩惠にも浴して居ないので、國家の事は野となれ山となれで、社會國家の上など、觀念は最も薄い。私共の方から見ると我國民の危險分子は實際の所、此下層人民程危險分子はない。下層人民の寄宿舍を建てて取扱つてる者も同感を發表して居る。彼等に主義なく人情なく只甘い物に蟻の這ひ寄るやうに利につく。僅に其丈である彼等には怖いものは巡査と監獄のみ。是が取退けられば、ダイナマイトの如く爆發して何をやり出すか分らないのであるから、何とかして國民教育を徹底したいものである。此監獄より學んだ事は夢にも見なかつた御上の御惠を三度程も受けたので、其恩惠に浴した者共は御上の有難さを知り豫想外の感に咽むで我々も貰ひ泣をした。他の人の想像だも出來ぬ程渇き切つた時に與へられた一滴の水は、立派な人が爵位を授けられたより以上に悦ばれ、自分も國家の一人といふ事を知つた。これ實に意外な結果を得た事であつた。其を以て獨り國民教育を受けたのみならず、未だ曾て御上の事につき聞いたことのない者が、家に歸へつて近所近邊に話すので、皇室の有難さが實物教授される。斯くの如くして我國の社會に充滿する危險人物は癒されて行く。是等下層人民は將來重大な問題を引き起す階級である事を御記憶願ひたい。

扨五萬人もあつて何丈の金を出すかといふに此頃の豫算では六百萬圓建築費等を入れて七百萬圓にも達する。之を教育費用に比しては文部省の直轄學校の費用に相當する。積極的の教育に六百萬圓位よりかけられぬに、消極的の事の爲めに此大金を費すの

は實に殘念な事で、何とか處置を附けたいものである。それ丈の金を出して結果は如何かといふに、本職柄は恥かしいが五萬人の懲役人中眞人間となつて社會に御恩返へしをする者三割若しくは四割、殘りの六七割は同じ事を繰り返へすのみならず、染直して行く。そして社會的疾患となる。六百萬圓はそれが有功に用ひられて居るとばかりは言はれぬ。直接從事して居る我々が獨り力んでも仕方がないから社會の人と內外相應じて善後策を講じたい。

其五萬人を如何な種類の犯罪人かといへば昔の人も申す如く一番多くて盡きぬものは泥棒で、これが第一位を占めて居る。次に强盜、人殺、詐僞、放火恐喝等である。文明につれて現在知られてない犯罪も現はれ、其方法も進步して行く事は甚だ注意を要することである。

然らば其原因は何であらう。是教育家或は社會運動家に御考へを乞はねばならぬ點である。其原因も詳しくすれば學者達は幾種類にも分類されるが實は益がない。實際のことを申せば貧乏ではない、無い物はなしでも足りる、然らば經濟上の變動かといふと、これ社會には適當らぬ唯一部分である。之を手取早く通俗に申せば色と酒とである。之は昔も今も眞理である。即ち酒とは飮食を色とは虛榮を意味する。此社會に人を迷はすものの一番勢力者は此二者である。物質文明の強く動く所は其慾益々煽り煽つて其處に犯罪を見るのである。惡魔は人を躓かせて其不樣を眺めて居る、快樂を待ち望むは惡い事ではないけれども、其處には必らず罪惡が伴ふ。これは宗教家の立場よりいへば、快樂に伴ふ罪の報は死と斷定す。然し社會はさうでない。田舍で今年豐作だといへば警察や監獄は盛んで、反對に不景氣ならば我々は閑である是程人は慾の奴隸になるものである西洋に於ても月給日の翌晚は一番犯罪者が多いといふ。小人閑居して不善をなす。これ實に眞理である今日の社會には此言葉が一層當嵌り當局者も多くの犯罪人を持餘して居る。以後猶益々監獄が賑はふ事

は素人にも想像がつくと思ふ。
故に種々の方策を講じ今迄の筆法を變へねばならぬ。監獄數を以て犯罪者の多少は判斷が出來ない。監獄といふ此レンズから社會を見ると種々の方面に惡い點を知る事が出來る。社會學者、宗教家、教育家に我々の報告をなすは當然の事であるからそれも少々申上げて見たい。まづ犯罪の原因を知つた上は犯罪を防ぐ最善良法を考へる事である我々の立場よりいへば犯罪者の乘る馬即ち彼等の舞臺を顚倒す事が第一番である。犯罪の背景は女性である。或意味からいつて女性は直接の原因である。料理店でつまらぬ女に戯れて赤衣を着る者も少くない。又更に深く立ち入つて犯罪の近因遠因を考へるに皆同じく女の力に動かされて此處に到つた事を認めざるを得ない。三十年の經驗によれば犯罪は直接間接女性によると申しても差支ない。今日迄我國の女子教育は實に不足で歐米諸國に比較が出來ない爲め、日本には當嵌まらないといふけれど、婦人の潜勢力は何處の國でも變らず、柔よく剛を制するのである。表面には何位勢力あるか現はれぬが、一種の空氣がある之れ婦人獨特の物である。蒔かれる者が弱いのかといへば其の中には中々荒ぶる男が默して居る女性に操つられて居る。或日税務署の役人が入獄した。彼は相當の月給も取り家庭も有るのに保險金欲しさに放火した其譯を尋ねると妻君の顏色を見て口には云はねど纔かの表情で相當の教育ある髭男も動かされたのである。戰場に立つて敵を負かす力はあつても家の長火鉢の前に來ると強い敵が居る。實に女王の感化力は強いものである。此力が社會の各方面に及び凡ての事を支配する事は事實である。故に婦人の方が教育され眞に資格ある人々ならば天下は太平である。偶々過つた事をしかけても鍛へられた女王の正しい力に引き戻され殘酷な犯罪も起らないであらう。かくいへば責任を女子にのみ歸せしむるやうであるが、實は責任のある事は又女子の誇るべき處である。我國は不幸にして教育が女子の爲めに不行屆

であつたが、是よりは盛んになる事と思ふ。然し五萬の犯罪人は下層社會の小商人職工である故教育なき階級から出て居る。私共の監獄にも千二三百人ゐるけれども、多くは人足、土方、職工等で無教育の家庭に育つた。女王が無教育であつたのである。故に今後とても私の理想は達せられぬかも知れぬが、篤志の方があつて、貧民教育の機關を設けパンを得るに汲々として餘裕なき人々の閑を捕へ雨の日等に通俗講話等をするのもよろしからう。又子供の爲の教育等は大いに貢献する處がある。

最後に犯罪人の改悔といふ事に基督教感化の如何なるものなるか一言申上げたい。多くの者が眞人間にならないで困つて居る。今は僧が教誨師として監獄に來て居る。然し功果はあらうが、確とはいひ難い。不思議にも基督教が入ると思はざる處に芽をふき小さな粒も大いなる奇蹟となる事が出來るのである。かく功果あるものを以て、何故教誨に用ゐないかといへば、これには歷史があつて一直線には行かず、種々困難を經て追々力を現はして居る事を申上げて置く。怖ろしき犯罪人が基督教の感化を受けて善き働をして居る例は澤山ある。殊に最近にあつた一西洋婦人の働には我々をして大いに感動せしむるものがある。冀くば諸姉！社會改革上御應援あらん事をお願ひする。（第十一回夏期女子修養會講演梗概）

日本婦人傳道に就いて

長谷川喜多子

基督教が日本にはいつて以來傳道に就いて日本婦人獨特の事業とてはなく、大抵は外國婦人より聞き

覺え見覺えて働いて居ることが多いのであります。敎會にある婦人會の働は敎會が有福でない爲、其資金を作る事に努力する事であります。東京附近許りでなく、彼方此方の人から金を募る外、率先して訪問に出かけます。又説敎でもある時に廣告を配ばる或は自分の知己へわざ〳〵知らせに參ります。新らしく敎會に來た人に又來るやうに親切に導いてあげたり等致して居ります。婦人會では大抵克己箱といふやうなものを置いて、それに金を入れ、或は手藝などをして得た金を敎會内外の事業に用ひます。敎會内には修養會、料理會、聖書會があり、それより以上にはこれといつて特別の働は餘り致して居りませんやうに思はれます。若い婦人の靑年會も殆んど同樣な事をして居ります。此の春東京許りでなく日本全國の敎會の婦人大會が行はれました。東京では三十三の敎會が代表され神田の女子靑年會館で三日間婦人修養會が行はれました。其結果は可なりよい方で、敎會に初めて來た婦人令孃方もありました。然し各部分的の働をして、違つた宗派に違つた規則で縛ばられた者が一團體になる事は、隨分困難であります。又共同大會には隨分準備金を要します。

傳道の働は時々婦人の爲め講話會を催して、聖書研究に人を引つける位では、まだ〳〵幼稚なことで外國へでも道を傳へる爲めに人も金も送る事の出來るやうに致しまして、それ程まで熱心のこもつた傳道師を作らなければならないのであります。其故もつと敎會に活氣を起し信仰を燃やさなければなりません。敎會とか傳道とかいへば只牧師或は宣敎師のする事とのみに思ふのは間違ひであります。誰にでも傳道する責任があります。世界中の者に知らしむる爲、如何な所へも行つて人に話すべきであります(羅馬書十章九節)唯己れ一人にて聖書を繙いても神の子を導く人がなければ進歩は有りません、自分が信じて滿足して居る信仰を述べ傳へるのは、己れの信じて居る醫者を病人に紹介すると同じであります諸姉の中に專門傳敎師として働らいて居られる方も

ありませうが多くは學校に居る方々であります。學生である時分には厚い信仰があつても新家庭にはいると變はる事があります。基督教は苦るしい時や、或は學生時代にのみいるのでない生命の眞清水を常に飲むには、限りなき命を續けるには一生涯かゝります。人に道を傳へんとするに當つて、反對の爲それを半分にて止めたり、困難があるからとて失望してしまふのは戰爭中我が辛いからといつて歸へる兵士のやうで、實に意氣地なくいやしむべきであります、我々は基督の小さき兵士でありますから、最後まで續け如何なる、境遇に於ても汚れたる世を清むる事に益々力を盡すべきであります。主エスの下に愛の御旗を揭げて進むならば中途で斃れても後に戻る事はありません。惡魔の軍勢の强い爲、敵を怖ろしがる弱い兵士は、其軍隊の目的は果されません。世の有樣をまつて命を惜しがる人は限りなき命を充たす事は出來ません。我々各々が强い基督信者にならんと努め教徒か强くなれば如何に反對あらうと最後の勝利は我々にあるのであります。教會員となつた以上は各々一人〳〵に傳道の責任があります。其義務を遂ざけるのは最早教會員でないと云はれるのも同じであります。どうか家庭に歸へつても、此修養會で得た精神を常に心に入れ私は教會員であるといはれる丈の義務を果したいものであります。我々はその用意が出來て居りませうか。決心がありませうか。米國には八週間倶樂部といつて長き暑中休暇を利用するに誠に善い催であります。休前に種々の計畫を相談して、色々な手仕事を習ひます。初めの間は練習を爲し家の縫物を手傳ひますが、段々外へ賣出します。西洋では大いに成功して居るやうです手仕事許りでなく善き本を讀むで報告します。牧師を助けます。町村の低能兒を親切に教導したり、病人不具者を看護します。往來の道路を修繕するとか雜草を拔くとかなどの小さい事迄も何か益になる事があればやります。私は日本にもこの様な傳道的倶樂部を設けたいものと思ふのあります。

如何に讀書すべきか

なにがし

讀書の事に就いては日本にも色々の書物があるが西洋にも隨分澤山ある。例ば徒然草、枕の草紙といふやうなのにもあるし、貝原益軒の樂訓などは一章まるで讀書のことが書いてある。又書物を讀むに、どういふやうに印をつけたらよいか、靑や赤や黑で印をつけることなども敎へてある好書述錄？といふやうな書物もある。私は貝原益軒の樂訓の一章は大變よいと思ふから、一度お讀みになるやうにお勸めしたい。西洋のならエマルソン、カーライル、ジョンモーレなど、さういふ人が色々讀書の利益趣味などを面白く書いたものがあるから、英語の讀める方は、これ等の書物に目をお通しになつたらよからうと思ふ。誰の作でしたか忘れましたが日本語に譯せば「人生の快樂」といふやうな題目の本で、恰度樂訓のやうなものもあるのを見た事がある。又ブックス アンド リーヂングなど澤山あるから、それ等の書物をお讀みになるもよろしからう。エデンバラのケーテーがアモング グレート ブックスを書いて其の中の十節ばかりは大著述を集めて批評したり、眞髓を紹介したり、同時に正しい人生觀をも窺ひ知られるやうに工夫して書いて居る。又ブルクリンのヒルスが「吾々を敎ふる偉大なる書物」といふのを書いて、色々の書物に就て是はどういふ爲めに書いたものであるなどと面白く書いて居るものもある。要するに是等の書物の紹介や批評を見れば、略ぼ見當がつくから英語を讀む方は、それによつて手引を得ることが出來るであらうと思ふ。

偖私共は如何に書物を讀むべきかに就て少しく私の考を申上げたいのであるが、先づ讀書することの必要なことから申し述べたい。保羅は提摩太に贈つた後書の四章十三節に「爾來る時わがトロアスにてカルポの所に遺しゝ外衣を携へ來れ又書籍を携へ來

れ其皮なるもの尤も肝要なり」といつて居る。これは保羅が羅馬に捕はれて居た時に、着物と一緒に書物も持つて來て呉れ其中でも皮の書籍が一番大切であると提摩太に申送つたのであるが、其の皮の書籍といふのは即ち聖書であつた。何故皮の書籍が一番大切かといへば、例へば盆栽の好きな人なら盆栽、繪畫の好きな人なら繪畫を持ち廻はるやうに、書物の好きな人は書物を持ち廻つた。非常に嗜んで讀んだ。如何に保羅が讀書に趣味を有つて居たか、それも普通に讀むといふのでなく嗜むといふことに考へ及んでもらひたい。保羅は提摩太前書の三章十三節にも讀むことを勸めて居る。保羅は實に讀書を嗜み且其の必要を知つた人であつた。

又ホゼヤ書四章六節に「我民は智識なきによつて亡ぼさる云々」といふことがある。是は智識を重じないで等閑にする爲に國が亡び、智識を棄つるによつて神に棄てられる、智識を修むることを怠るに依て神に其子孫を忘られれるといふのであるが、殊にこの智識を修むることを怠る時は其の當人ばかりでなく子孫迄も其の餘波が及ぶ。これは婦人達、殊に年を取つた方には、必要な教訓と思ふ。唯世話女房になつてしまつて、書物を讀むことをしないならば啻に自分一人の損であるばかりでなく、子孫も亦神に棄てられるやうになる。若い時から注意して讀書の習慣を扶植して置くことが肝要である。格別に女子に取つては其の習慣を持續して、智識を修め、すべての書物に對して研究の態度を取ることが大切なのである。

又讀書ほど樂しいものはない。徒然草を讀んでも書窓の下に見ぬ世の人を友として居ることは如何に樂しきかといふことが書いてある。樂訓にも同じやうに我々は王侯貴人と膝を交へて話することは出來ぬが、讀書に於ては古今の聖賢君子の別なく、萬國萬代の人とも話をすることが出來る。實に樂しいものだと述べてある。故に讀書は交際に比することが出來る。讀書によつて多くの人と親しく交り、其の

趣味を交換することが出來る。自然と胸も開けて樂しいものである。言換へれば讀書によつて友誼を結ぶことが出來るのである。

若し人にして古今に通じなければ牛馬に着物を着せたやうだと支那人はいつた。又人一人居るはよろしからすなどとも云はれて居るが、書物を友とするのは是れ等の方面から考へても大切である。

そして是は内容に富んだ問題であるから、一寸玆に言ひ盡するは出來ないが、私共が讀書することによつて有益な友を得ること出來る。眞に得ることが出來るやうにすることが必要である。

次には書物を撰擇することであるが、元來讀書するのは交際場裡に在るのと同じことであるから、其の讀むべき書物を撰擇することの必要は、私共が人と交際するにも其の受ける所の感化を考へ、又其の相手を撰擇せねばならぬのと同じである。矢鱈に交際すればよいのではない、無茶苦茶に交際をすればそれは却て非常に損となる。只徒らに手當り放題に讀みさへすればよいとはいはれぬ。それに就て一二の注意をいへば

一、友を選ぶに餘り評判の惡い人は用心しなければならぬが、讀むべき書物を選ぶのも其の通りである。世の中に定評があるから先づ信用の置ける人の批評を聞くがよい。唯だ新聞の廣告などを見て直ぐに買ふのはよろしくない。

二、私共でも大抵切つても切れぬ緣を結ぶ程深い交をせずとも、一寸逢つた所で其の人が解かると同じやうに、書物でも矢張り一寸見て如何はしく思つたら、未練なく捨てた方がいゝと思ふ。玉を瓦と間違へて捨てたとしても、人間の判斷には間違はあるものだから未練なく捨てた方がいゝと思ふ。その考からして下らぬ書籍をちよい〳〵手にすることはしない方がいゝ、所謂クラシカル、古今の大著述に目をつけて讀んだ方がいゝ。實に先づ大きい書物を讀むことが必要である。大きいといつても何も嵩の大小ではない。嵩は小さくとも土佐日記などの様な大

著述もある。まあ大きい書物といへば外國文學をやるとすればハンドレドブックがある。選び方は必しも公平とはいへないが、何にしても誰にも便利なやうに選んだものである。

何しろ大きな書物を選ばねばならぬ。日本のでいへば源平盛衰記にしても、太平記にしても、平家物語にしても、萬葉集にしても、其の中に洩れるものではない。西洋ならば猶色々あるが、殊に大きなものは聖書であるから、此の聖書を讀むかいゝ。どんな本でも必ずしも讀んではならぬといふ譯ではないが、大きな書物に心を用いないのは一般に通癖といへる。

さらば、如何に書物を讀むべきかといふことになるのであるが、ベーコンの論文の中に研學に就てのエッセーがある。その中に一寸味ふべきもの、鵜呑にしてよいもの、噛みしむべきもの、消化すべきものがある。それを何でもかでも噛みしめなければならないとしたら可笑しいと思ふ。或は餘り粗略だといはれても差支ないから、或るものは鵜呑にしなければならない。此のやうに書物には色々種類があるから、其の種類に從つて讀み方もかへねばならない

人は婦人は綿密だといふ評をするが、私は決してさうは思はない點がある。男子に比べて細かに思ひ付くこともあらうが、考が細かに届かない所があるやうに思ふ。もう消化する程のものになつて來ると綿密に考へて意味を明かにすることが必要である。日本の婦人はどうも昔からの習慣もあらうが此の點はどうも缺けて居りはせぬかと思ふ。

事柄の意味を考へるのに受動的と發動的とがある例へば面白い小説などは多く受動的である。恰度芝居を見て居るやうで、いくら讀んでも頭はよくならぬ。勿論小説の意味にもよつて非常に頭のいるのがあるけれども、多くは受身である。餘り頭の働かぬ時には受身となつて居るのも宜からうが、始終それでは大變である。

どうしても自分の心を働かせて考へることが必要

である。私は今日の青年の方々としても書物を讀む時に、書いてあることを唯其のまゝに理解するだけを能とせずに、自分の頭で贊否をきめるやうになつてほしいと思つて居る。

益軒の樂訓にもあるやうに、讀書は實に樂しみなものであつて、勿論樂しみに讀書するはよいが、然し唯甘い飴を嘗めるやうなことではいけない。もつと堅い込入つたものとして自分の品位を高める修養をする、或は何か事を覺へる、さういふ實益を得、德を立て愛を增す目的の爲に選んで讀書をする事が必要なのである。唯面白いために讀むことが多くなつてはいけない。何か目的があつてそれに實際の利益、精神の利益、靈の關係をつけて自分が善良なる生活に入る栞として讀むことが必要である。

愼しむべきは濫讀である。宜しく筋を立てて讀むべきである。例へば東京に居て目黒とか王子とかいふやうな所へ、一週に一度出かけて行くとすれば、地理歷史文學などに就て探究すれば非常に益する。何でも自分が居る處に中心を置いて、時々戻つて來ることが必要である。即ち時々中心を離れて輪廓に行つても又中心に立戻つて來る。家政に趣味をもつて居る人は家政の事のみでなくそれからそれへと辿つて行つて、また中心に歸つて來る、すると多方面に趣味が出る來る、東京へ住つて居るものが時々他所に旅行して行つても段々と趣味が增す。すべて書を讀むも同じことである。纒つた順序の立つた讀み方をして、餘り散漫にならないやうにせねばならぬそして大きい書物を選んで讀む。それは書物に限らない。何の問題でも同じことである。先づいろ〳〵考へて一番よい方法を取る筈であらう。或人はカードを拵えて必要と讀ふた所の書名や發行所や著譯者などをイロハ順に書付けてカードシステムにして勉强して居る人もある。或は帳面を作つてそれに拔書をして置てもよからう。とにかく活用の出來るやうにすることが大切である。

僅に私の思ふ所を述べたのであるが、若し今日の青年諸子の讀書上の參考になるならば、幸である。

倫敦より

ロンドンにて　周防蝶子

最早河井先生にはカリホルニヤの御用も御濟み遊ばし御歸朝と存じますが女子青年會にて又々御多忙と存じます何卒先生御身御大切に遊ばし下さいませ此頃はマシユウ様も御歸へり遊ばして益々充分に御働の事と存じ上げ一日も早く歸つて私の如き者でも御手傳申上げたいと存じて居りますが當分の内は未だ歸へる譯にも參りません看護婦諸姉の事が非常に心に懸りいつも神に願つて居ります、然し三井病院の方は益々神様の御榮の顯はれる事と確信して假令遠方に離れて居りましても神様に御願ひ致し居ります、木澤先生があんなに早く御死去とは少しも思ひませんでした何卒御一家族が主の道を御悟りになるやう祈つて居ります、實に神様は何時我々を御召しになるか少しも分りません。定めし此頃は神田の新らしき場所の新築會館で御働き遊ばし皆々様一層御多忙の事と存じ上げます、私は米國に居りました時紐育の青年會に三回許參り非常に皆様の御働につき感じました。折惡しくロンドンに參らなければならぬやうになりまして度々伺ふ事が出來ず非常に殘念に存じました。加藤高子様は色々青年會の事業につき御研究の上今頃は日本で御活動の事と存じ上げます。私も戰爭でも濟みましたら、少し閑を得て色々調べて見たいと存じますから、英國の女子青年會の所書と紹介書を御送り下さい。我が國の赤十字社一行もロンドンより九哩以上離れたるトリと申す大きい陸軍病院の一部分を預つて働いて居ります。まづ評判はよい方で御座います。各國より看護婦が澤山御手傳に參りまして戰地の近くまで活動して居ります。私も好機がありましたら、一度參つて當地の看護婦諸姉の戰場で働く有樣を見たいと思ふて居ります。立派な御婦人が皆看護婦となつて非常に活動致され、又度々慈善會等の催しもありますが、病院

の爲め負傷者の爲めとて、どん／＼寄附をされます。恐れ多くも　皇太后陛下　皇后陛下を初め、傷病兵の御慰問とか慈善芝居等にも行啓遊ばされて、赤十字事業を御助け遊ばすのは實に有難く恐れ多い次第で御座います。只今では何時平和になるか分りませんが、此頃は獨乙が少し衰ろへた樣で御座います。毎日／＼軍艦の沈沒、逓送船の行衞不明、名譽の戰死とかいふ新聞で、實に同情の涙に堪えず。自分が戰役に度々從軍致した丈に其感が深う御座います。早く平和の風の來れがしと祈つて居ります。又各教會でも特別の時間を設けて熱心な祈禱會を開き度々出席致しました。何處の病院も傷病者多く、又瓦斯の中毒内科病も隨分御座います。器械其他の物が充分に備へてあり、誠に行き届いて居りますが、私の考へでは矢張り外科術でも、内科術でも日本の方が進歩致して居りませんかと常に思ひます。數知れぬ澤山の赤十字社自働車で、患者をどん／＼と運搬致して、各病院に送る事は迚も我が國では見られません。又新鮮の空氣が必要とて、庭に色々と休養する事の出來るやうに致してありますのも、日本で學びたいと思ひます。時々ゼッピリンが飛んで參りまして皆を驚かせます。又死傷者も可なり有ります。私共は市から少し離れて居りますだけに、屋上には參りませんが、家屋の破壞は所々にあります。近くまでドン／＼ヒユー／＼響が聞えた事もありました。種々の方面から神樣は學ぶべき事を與へて下さいまして、私は感謝致して居ります。何處如何なる場合にも神樣の大なる榮光が顯はれて居ります事は、實に筆紙に記し盡くせません。又育兒法等も調べて見たいと思つて居ります。凡て新らしい事許りで少しでも御土産になる物を持つて歸へりたいと考へて居りますが、中々不肖の私には出來さうにもありません。終りに青年會の皆々樣に呉々もよろしく御傳へ下さいませ、又御祈の端へ私の事も御加へ下さいますやうに御願ひいたします。

會員皆様へ

ラピニサナトリアムにて

大谷ろく子

北米加州羅府女子青年會幹事なる同姉は渡米後僅かに一ケ年して に同青年會を大いに發展せしめ日米婦人親善の爲め多大の活動をなされしが過勞の爲め一時靜養必要の御身となられたり幸にも其後經過佳良にして近き内に退院の吉報に接するなるべし左は同姉の消息にして該地の機關雜誌會報に載せられしものなるが此處に轉載す。

近頃誠に暑さ甚だしく候間皆〱様には御健康如何にと御案じ申居候次に私事病の爲め皆様に御迷惑をかけ候が入院後經過よろしく御訪問下さる方々の第一の御言葉は「まあ眞黑になつて丈夫そうに」と此一事にても如何に健康狀態に向ひつゝあるかを御推察被下度候。此頃は毎日十五分間づゝの散歩も許され食後の片附等も仰せつけられ特に去る二十六日よりは殆んど健康狀態になりし方々のカテヂに移され少しづゝ家事を致し居り候男子の方には庭園の働をなされ中々興味ある事に存候、入院の初夜は何れの室からも苦しき咳の聲のみ聞えて心地惡く感じ候も晴々とした晨仰いでマウントローを眺め臥してパサデナの全景を望み候時は萬事を打忘れ只管神の御榮光を感ぜしめられ申候時々小鳥等の訪れ來つて食を乞ひ居る樣誠に可愛らしく三度〱殘りのパン等持ち來つては之を養ひ居り候然かも此小鳥は何うしたものか片目を失ひ如何にも哀れなる樣子にて他の小鳥が來れば直ちに逃げ行くを見れば或は爭ふての結果らしく存じ候此頃紙上に表はるゝ淺ましき事柄等を拜見致して人間社界も動物社界に違はざる樣存じ候。病の黴菌は弱りたる體を犯して人を苦しめ且つ死に至らしむ決して健康なる體を犯し得ざる事と初めて實見致し候が精神の狀態に於ても同じ事と存じ居り候間社會の腐敗に犯されぬ樣常に精神を鍛えたきものと此折を利用致し居り候。羅八章三十五節以下の聖句や哥林多前書十章十三節以下の御言葉が常に私の頭上に浮び一種言はれぬ勇氣と喜びとを與へられ神の御旨なれかしと祈りつゝ醫者の命ぜらるゝ

まゝを致し居り候唯私は只今青年會の爲に何事もなし得ざるのを殘念に存じ候へ共人里離れたる靜かなる所に於て會の前途の爲め及び皆樣の爲め神に祈る事の叶ふ事はせめてもの慰めに候。

鵠沼夏期休養所に於ける所感

楠子

▲東海道の藤澤驛を降りて直に鎌倉行の電車に乗り五六分間も行きますと鵠沼に着きます。

▲此處は一面の松林にて木の間がくれに別莊の屋根がまばらに見えますことに閑靜な處でございます。トンネルの樣に松と松が蔽ふてゐる砂道を縫ひながら十丁も參りますと海邊に出ます。海邊は東に近く片瀬腰越などに續いて居りまして波も餘り荒くなく海水浴に適してゐます。江の島を間近かに控へ蒼茫たる相模灘を正面にして遠く伊豆大島の淡い影を認めることもあります。また富士山の氣高き姿を心ゆくまで見ることも出來ます。波靜な夕凪に名殘を惜んで沈む日の紅く長汀を染め、鷗もあはたゞしく羽ばたきして飛び去る夕も暮れてしまへば、明月が鮮に照りそめ、江の島も闇に明く浮び出で、海上に映つた月影は波の一動きに玉と碎け、淸き想が一時に湧いて來るのであります。

▲甞て此の地に於きまして、女子青年會の夏期修養會が開かれましたさうでございますが、私の屬して居ります婦人會の夏期學校は、十年前此處に生れたのでございます。そして又私の忘れがたい信仰の友、今は天にある姉妹か此の鵠沼の地を大さう愛して四季折々の心やりに足を運ばせ、主に仕へて信仰の戰をなされし人だけに、屢々熱涙を注ぎたる祈りが献げられました。月遷り時變り其昔を語る人すら少く成りましたが、物ふる松の木立こそ若し心あらば記憶を告げて呉れるだらうと思ひます。かうしたところから私は一種の懷しき思ひに惹きつけられ、

夏季に何れへか參ると申せば第一に此處に目星を付けるのでございます。今年も避暑などゝ云ふ贅澤な心は毛頭もございませんが、子供達の健康を思ひ是非出かけたいと考へ格好な家を探して居りました時或る友人より青年會にも夏期休養所の設置せられました事を承りましたので、早速幹事の御方に年長けたる者でも御容れ下さいますかと御尋ね申しましたら、大さう歡迎して下さいまして七月中旬より御世話に成りました。

▲休養所は鵠沼の西北隅の一段と高燥なる地に建てられた或る子爵家の別莊にて、瀟洒な二階造りの家でございまして、間毎の工合から臺所湯殿に至るまで都合よく誠に住み心地がよろしうございます。周圍の靜かさはいふまでもなく人聲などは絕えて聽えません。唯かすかな波の音と何れの百姓屋に飼はれて居るのか鷄が時をつくるのだけが耳に入る位でございます。二階から坐ながらにして海の景色を眺め月夜には銀色の波が江の島の岩に打寄せるさまなど海邊に立つて見るのとは趣が一段と違ひます。

▲今年は未だ開かれましたばかりで、世間に廣く紹介されて居りませんから、入舍せられし人員は十人餘りに過ぎませんでしたが、全く家族的で愉快でございました。此處は凡て自炊制度でございますから御飯時に近づきますとあちらでは米を磨ぐこちらではお菜の材料を切るなど庖廚が賑ひます。此の地の風習として朝早く女が野菜を入れた籠を背負つて賣りに參ります。皆樣は出て一日のお總菜をみつくろひ、晝は里芋、夕は茄子のおにつけ、お薩でも蒸しませうと、又濱へ行き地引網の上るのを待ちましてぴん／＼とはねて居りまする魚を買つて參りまして之れを調理し、或は煮肴或はふらいと思ひ／＼の料理に舌鼓を鳴らします。始めて來られた時には、未だ食事の仕度などに不慣れな御孃さん達も、一週間も經たないうちに立派に出來る樣に成られます。一日私は友人の別莊に招かれ、半日以上留守にして歸りますと、三人の御孃さんの一組は今日は東京から五

人の來客がありまして晝には大騷ぎでしたと云はれましたからそれならどうなさいましたかと尋ねますと、皆手料理で御飯を上げましたとのお答へ、それでは大さう良いお稽古でしたねと申したことでございました。

▲名が休養でございますから何もかも呑氣生活を發揮して居りますが一方に於て自然と宗教的空氣が漲り、各部屋から洩れくる讃美歌の聲に心清められ、更に密室にてなされる個人々々の祈りの氣配は自づと人の心を引きしめます。日曜日には此の自然に取り圍まれた座敷に於て小さき集りを開き、感話祈禱に聖日を憶えました。幸ひに井深花子夫人も御滯在遊ばされ御話を伺ふことも出來て誠に有益でありました。

▲今や女子青年會はどの位多くのそして力ある働きをなされ、學問のため勤務に勞れたる幾多の若き人の心に慰めと光を與へ、救ひの道に盡さるゝか知れません。眞に世の光地の鹽であると思ひます。

此の休養所の如きも其の新しき事業として美しく且つ有効な思付きと云はなければなりません。

▲若き婦人方と申せば、必ずお母さんか適當の同伴者なくては、何處へも旅行する事は人も自らも許しません。それ故學校の休暇或は勤めの休日を利用して避暑或は海水浴などに出かけやうとせらるゝも、家の都合の事なども加はつて、目的を達しないのが一般であります。併し一たび斯かる場所の設けられし事が廣く知られましたら、一大福音と思はれるでありませう。何の危險も懼れもなく心身の健康を養はれ、傍ら家庭の要務の練習までも少からず成し得るのでございます。唯一日二日の骨休めに來られる人も、簡便で淸き多くの樂しみを與へられますことは確かに信じて居ります。願くは青年會の古き或は新しき總ての事業の上に神の祝福の豐かにして益々發展せられ、今年生れし夏期休養所も特別なる御恩寵の下に、健全に成長發達してあの松林の生ひ繁るが如く、好果を以て幾とせも迎へらるゝ樣希望して止みません。

ヨセフが若し逃れたならば

一會員譯

私が只今から申上げよふとする事件には場所を撰ぶと共に其の時代をも撰びませう。そして其の場所は亞細亞と亞弗利加の間の地峽にあつて亞弗利加の北方のシリヤの珍しい小さな國に定めませう。人々は此の地を聖地と呼んで居ります。そして其の又時代は多くの隊商が其の地峽を通過して居つた頃を撰んで見たいと思ひます。

＊　＊　＊

今地峽を通過した一組の隊商は數日前買受けた一人の美しい青年を伴れて居りました。そして此の青年は今將にエジプトの南方のオンと云ふ町の奴隷市場に運ばれようとして居るのです。そして此の青年は私共がヤコブの子のヨセフと呼ぶ青年でありました。ヨセフは非常に高尚で品の良いヘブル型の美しい青年で、年は見た處十八九ですけれども、私は未だ詳しく其の年齡を調べて見た事はありません。

時は空氣の新鮮な空の非常に澄み切つた朝で、自然は濃やかな美しい色に包まれて居たのを覺えて居ます。前の晩は本當の暑い晩で天幕のまはりの壁は捲き上げられて居りました。此の美青年は慘忍なアラビヤ人の結び付た駱駝の毛の綱で括られて寢て居りました。そして彼が動かふとしても身動き一つ出來ないやうに大變に固くしつかりと手を括られながら、其の儘で地面に座つて居りました。處が私には分らないが、不思議にも彼に取つて大變痛く苦しかつた毛綱の結び目を前齒でだん〳〵と緩めて、また何度も何度もそれを嚙んではゆるめ、緩めては嚙み終にその綱を解いて仕舞ひました。

此處で青年は鼾をかいて寢て居つた惡者から免れ直ぐ外に出て綱の間を注意して辿り乍ら、其の西側の水の無い谷間に來ました。其處からもう四五町程

行けば何の心配もないチエールバルと云ふ處に着いて、その青年は自由な身になる事が出來るのです。
其の谷間に着いた時天幕の外に寝て居つた所の汚ない少さな二疋の犬が、ムックと起き上つて、それは實に大變な勢で吠へながらヨセフを追つ掛けて來ました。此時若いヨセフは少しも驚ろかず、昔あの名高いダビデが巨人を石で打つた時の樣に、落ち付て正確した手付で、ふり返つて大きい石を一つ見事に其の犬の背骨に投げ付けました。そこで丁度彈丸にでも當つた樣に其犬は倒れて死んでしまひましたが、もう一疋の犬はそれに驚いて、前よりももつと大きく强く激しく吠え立てました。私はそれを見て忍耐して居られない樣になりました。私は只その吠る犬を殺さねばならない。さうすればヨセフは自由な身になり二晝夜の内にお父さんの許に歸ることも出來るし、又ヨセフを賣つた兄弟等は後悔するにも及ばないし、そして此の世界は…………あゝ此の世界はどうなるのでせう。

私が手を犬の方へ擴げた時私と同じ樣に注意して先程からの出來事を見て居つた案内者が私に申しますには「いや／＼あの人達は皆自知力のあるそして皆自由な人々です。そして私共が神樣の子供であると同じ樣にあの人々も神樣の子供です、それで貴方でも、私でも自分で自分が何をして居るか知らないならば、私共はあの方々に干渉してはなりません。さあ此方へお出でなさい。貴方に見せたいことがあります」と。
そして其の案内者は私を天文學者等が星の無い所と呼んで居る地方にふりむかせました。私は其處に外の星座を發見しました。それは實に數へられない程の澤山の星で、私共は其方へ向くと直ぐはつきり見えました。その時急に案内者が「其處に見える星などは、私共が毎日々々見て居るものと同じものの樣ですけれども、同じものではありません。貴方はそれが解りませう。實は私自身さへあんなものが何のためにあるのか知らないのですけれども、私は樣神

が私共に研究させるためになさるのだらうと思ひます。神樣は大變親切にして下さるけれども、私共が少しもお尋ねしないから、それで私共は何も知ることが出來ないのです」と申しました。

案内者は始終星の中を何か探し廻して居りましたが、遂にそれを見付けだしたらしく、それを指差しました。其處で其の方を見ますと、又私共の毎日見て良く知つて居る星座と、私共の親しんで居る此の世界に良く似た世界とが、其所に見えました。耳の形をした南亞米利加も羊のの足の樣な形をした亞弗利加も、提琴の形をした地中海も、長靴の樣な形をした伊太利も、フートボールの如きシシリーも、皆其所から一目に見えました。

「扨此所を調べて御覽なさい。是は未だ新しい事で誰一人未だ調べやうとしたものはありません。此所に居る人々は神の子供でないばかりでありません、只の動物に過ぎないのです。そして彼等は自知力がある樣ですけれども、實はそんなものはありません。だから貴方は何をするにも彼等に害を加へてはなりません。そして又彼等は自由でもないのです。此所からなら何でも見えますから、貴方も此所であの死んだ犬を調べ、そして又一體どんなことが起るかをよく御覽なさい」と案内者が申しました。

それは――前に申しました樣に――實に朝の美しい時の事でありました。あの恐しいアラビア人は天幕の中で高鼾をかいて寢て居り、そして美しい青年のヨセフは水の無い谷の傍で、あの死んだ犬の屍體が近く仆れて居る處に立つて居りました。そして今一匹の番犬が噛付くやうな鋭い大きな聲で吠へて居りました。そして先づ私は前に思ひ惱んで居た通り其犬を殺しました。ヨセフは喜んで其所をふり返りて見ながら走り去りました。幸にもあの恐しいアラビヤ人は未だ一人も目を覺ましません。殊に隊長は前日の疲れでか前後も知らず熟睡して居りました。青年は良く附近を注意し乍ら、チエールバルの角を通り過ぎ、一寸後をふり返つて見て、誰も追手が來

ないのを確かめて、懸命にもう安心だと思ふ處まで山羊の樣に走りつゞけました。

話が變つてアラビヤ人の天幕では、それから二時間も經つて、漸く一人の者が起き出して何だか樣子が變なので外に出て見ると、犬が二疋とも殺されて居るので一同は大變に驚きましたが、然し彼等其の當時はアラビヤ人一般と同樣に彼等も迷信などは無かつたので、誰も奴隷一人位は居なくなつても餘り氣にも止めず只其の晩の番人が其怠惰であつた事を罰せられましたばかりで其の儘にして再び隊商は進行を初めました。

青年ヨセフは一時間も走つて水のある所に來ましたので其處で水を浴び又自分で持つて來た袋から荒麥のパンの片を出して食べました。そして又今度は餘りに急がずにゆつくりと歩き出しました。其の夜はテレビンと云ふ處の木の下の岩の間に寢たので、誰にも見付からず、其の翌日は又一日休みもせずに歩いて、夕方に富貴な酋長の邸に着きました。其所は何の汚ならしいのもの無くアラビヤ人も一人も居らず、そして東洋の凡ての贅澤品が備はつて居つて永久に樂しい所の樣に見えました。然し、そこには近よれば何處から來るのか解りましたが、眞に悲し氣な聲が聞こえました。それは長く列を作つた婦人達が手を拍ち乍ら、悲しい調子の胸を切られる樣な苦しい歌を叫ぶ樣に歌つて居るのでした。そしてそこにはヨセフの父のヤコブが淋し相に物思ひに耽つて頰杖をついて座つて居りました。窓掛を横に開きますと黑い氣味の惡い大きな血の着いて居る立派な上着や肩掛等が見えました。其時ヨセフは突然天幕の中に飛び込んで「お父さん、私は此所に居ります」と大きな聲で叫びました。まあその叫びはどんなに喜ばしい氣だつたでせう。實に神樣を讃美する感謝の叫でした。

怪しい婦人達はその聲を聞いて飛んで來て喜びました。ユダやルベンも出て來て僞を云つた兄弟達と

共に列に加はりました。ヨセフはふりむいてユダの手を握りました。處がユダは何かヨセフの耳に囁きましたが、老人は氣にも止めないで只ヨセフの再び歸つた事を喜んで、小牛を殺させたりして大宴會を開いて喜こびました。私は之を見て初めて自分が生きて居た甲斐があつた事を知り非常に喜びました。

（つゞく）

銀の十字架

舊いシエナの街の曉を聖カテリナは聖鐘が鳴り初めました時、歩いて行きました。彼女のほのかな藍色の眼の中には天上の平和の光明がありました、何故と云へば彼女の足は地上に在りましたけれど、彼女の魂は天使と一緒に居りましたから。

彼女はしとやかに優美で百合のやうに淸らかでございました。然して曉の空氣は今しも彼女の頰を薔薇色に染めたのでしたけれど、なやんで居る人達が慰籍と安息とをもとめて眼を向けるその蒼白い輝く顏には美を思ひ兼ねました。

人々は幻のやうに狹い街路を下つて行く彼女を見ました時に、押し切つて彼女の讃辭を發しは致しませんでしたが彼らの帽子をとりました、然して彼女が友達へでも話すかの樣に、唇を動かし乍ら、その遠く夢見る樣な凝視で、何を見て居るのかしらと思ひました。

こんなに朝早く外に出て居る人は殆無い位で御座いました。それで聞えるものといつては彼女の足下にさまよひまはる鳩の聲が彼女が行かうとして居る敎會へ彼女をこゝちよく招いて居る聖鐘かで、彼女の周圍に在る王宮は沈默と影との中に立つて居りました。

然して、戰爭の爲に建てた塔は暗く傲然と彼女のまわりに起つて居ましたがその頂は、朝が明けるにつれて光明を浴びて來、その彼方の夏の空には羊毛のやうな雲が輝き、曉の灰色は初め薔薇色に、それから火焰へと變つて行きました。

彼女が通つた曲り角のマドンナの聖堂の傍に一人の旅人が寄りかゝつて居りました、疲れ切つて寄邊もない様で。彼は包を脊負て外套をつけて居りました、彼は快い夏の朝の新鮮さに震へたのでした。

『お助け下さいませんか』とその旅人が云ひました彼女は彼を見て、助けを乞ふて差し出した時弱々しい震へたその手から、如何にも重げなその眼から、灰色をしたその唇から、あの恐ろしいマレアが此の人を呪つたのだと知りました。

それで、彼女はその人の物語に耳を傾けましたがそれは聞くも憫れなもので、寡婦の母は山の上で、その息子を待つて居り、また息子は夏が來るまで骨を折つて働きましたがその仕事がもう仕上がると云ふ時に彼は熱病に罹つたと云ふのでした。

彼は若くて希望に滿ちに居りました、然して微笑んだ眼は彼女の慈悲にお禮を云ふやうに、見えました。そして云ひました。

『山の家へ着きましたらそして善い信者の方々が路々お助け下さつたなら私は全癒りませう。

私は空氣がよくて良いカセンチノへ參るので御座いますけれど、私の力はよく續かなくなりますし、其所は遠いのでございます。それで今日、私のわびしい旅路へ斷食で出かけないで濟みます樣に、小々のパンと酒との代り、何かおめぐみを願ひます。』

すると、彼女の憐恤にかすかな當惑が雜つたやうで、さしもにゆかしく聖い彼女の顔に雲の影があらはれました。

『あなたは私を貴婦人と仰しやいますけれど、私は然うではございません。友よ、私は貧乏の誓を立てたドシニカの尼に過ぎません。あなたの旅をまもる爲のお祈禱は差上げられますけれど、その外なにもございません。何故ならば私が着て居りますこの衣は敎團のもの、私のものでは御座いません。そして彼等が私に與へましたそのパンさへも尼寺の戸口を出ますとき路傍の乞食に渡して了つたので御座い

ます。私が自由に出來ますものなら、あなたのお求めのものはみんな差上たうございますけれど』からして彼女は嘆息しさて去らうと致しましたところ、彼は彼女を引留めて、冷たく窶れた手で彼女の外套をつかみました。

『あなた樣、キリスト樣の愛の爲、私を左樣な追ひ遣り方はして下さいますな。』

彼は聖名を心なしに使つたのでしたけれど、彼女はひどく動かされました。彼女は和らげられた嚴肅な樣子で彼の方へ向きました。そのひまも彼女の手は、何か手ばなすことの出來る物をあてもなく探す樣に、その簡素な衣の上下に動いて居りました。

やがて彼女は腰に垂れて居た珠數を上へあげて、その銀の十字架をとりました、それは小さくてごく舊く、端が擦り減つて、圓くなり聖像は半分消えて居りましたけれど、貴婦人が黃金の十字架を愛するよりも、もつと彼女はそれを愛して居たので御座いました。

嵐の時にも、平和な時にも、それは彼女と生を共にした友でした。彼女はいたむ心で祈つた時それを自己の胸に押しあてました、そしてそれを掌にのせた時に、それに接吻を致しました。

『キリスト樣の愛の爲に、では、これをお取り下さい、これ一つしか御座いません。』

そこで彼は彼女にお禮を云つて去りました、彼女は、其日教會で祈禱を致しました時、彼を助け玉はんことを、主に願ひました外は、彼のことを考へませんでした。けれど旅人はカテリナの十字架をその胸にかけて居りました然して彼女の臨在は忘れられず祝福のやうに彼について居りました。

今は都はどよめいて、街路は眞晝で御座います。そして聖鐘がまた、忙がしい邑の上へ鳴り出でます彌撒の終んだ教會から、人々は徐かに散つて行きますが、惠まれたカテリナはその席になほも留まつて居ります。

それと云ふのも、聖い幻が來たからで御座います

それは此世に居て影が彼女のまわりに落ちる樣に思はれ、その幸福な魂が輝いて、天上のものを見上げた時、彼女によく來たもので御座いましたが、其日彼女に來た夢は一番甘美なもので御座いました。

何故ならば、之が榮光の中に影はれ玉ふて、まだ眼が見たことのない寶で一ぱいな部屋に立ち給ひ、いとも貴重な寶石やゆかしい光明の眞珠で飾つた驚くばかり美しい十字架を、主は持つていらつしやいましたからです。

それ等の寶は主を愛しまつり、主をよろこばせまつらうと求めて居る地上の魂たちから受け給ふた贈物であると主は彼女にのたまひました。

『あれ等は貴い奉仕のわざであらう。』

と彼女は初め思ひました、然して

『あの樣な贈物を主に持つていくことの出來る人達はまあなんと仕合せな』と思ひました。

彼女は何にもさゝげる事が出來ませんでした、然し、彼女が旅人にやつた一番善いものさへも、あれら輝く寶玉には及びもつかないのを思つて嘆息致しました。けれど主は星のやうに輝いて居たその十字架を彼女の方へさし出されて、彼女に、見て、前に見たことがあつたか話せよとのたまひました。

『いゝえ、左樣なものを見たことはございません。』

と彼女は恐れ愼んでお答へ申し上げました、けれども急に甘美の洪水が波の樣に彼女に參りました、何故なら、寶玉と黄金の中に彼女がキリスト樣の愛の爲に與へたあの小さい銀の十字架を彼女は見たからで御座います。

その朝の彼女の幻は天からのおしめしで、私達が學んでわかる樣にとの深い意味の證據であつたと子供諸君はお考へになりませんか。それはかうなので御座います、私達がキリスト樣の愛の爲に與へる私達の一番善いものが、たとへどんなにつまらない者で御座いませうとも、キリスト樣がその聖手でお受け下さいます時には、變つて榮光となりませうと云ふことで御座います。（ＭＭ譯）

歌

辻村やす子

○海　岸

蠶豆の花の香あましうつせ貝
　ゆきとよせたるいま川畑に

あまの子に敎へられつゝしほ干潟
　まてつき居ればうしほさし來る

○別離の席に琴ひきたる人にかきてみす

つまことの曲を葵ときくからに
　またもあひみむ千代ませ我君

ちよろつの思ひあれともうちつけに
　涙こぼれて云はむすへしらず

○新　開　地

秋かぜに茄子の實くろくそよぎつる
　畑は亡びて人のいへとなりぬ

君ときて藤豆つみし垣はいづこそ新しき
　きの香たゞよひいへたちつつく

聖書研究

小預言者（二）

横田貞治

總論（つゞき）

以上の書物の或物を學ぶ前に先づ果して預言者とは何者かを一應知つて見たい。預言者といへば將來の出來事を預め言ふ所の者の如く思はるゝが決して左樣でない。尤も預言者は多く將來を預言して居る然かし眞の預言者には其が主眼となつて居らない、或者は自ら商賣的占者たる事を嫌つて居る位である一體預言者とは原語で何を意味するか、或人は「泡立つ」と云ふ意味の文字より來たので預言者は熱心に口角沫を飛ばして語るが故にかく云ひしとするものもあれば甚だ疑はしい。そこで字義によりて其意を尋ぬるは困難であるとして預言者に對する他の名

稱によりて其何者であるかを知る事は出來まいか。サムエル前書九章九節に「今の預言者は昔は先見者とよばれたり」とある。此ローエーとは「見る人」の意で洞察力の秀でしものを云つたのであるが同意味でもつと屢々用ひられたる語は「異象」と云ふ意味を含んだ語である。即ホーゼー（異象或は默示に見る人の意）である、民數十二章六節に「汝等の中に若し預言者あらば我エホバ異象に於て我を之れに知らしめ又夢に於て之を語らん」とあるは其れである。

預言者は又屢々神の人とも呼ばる。モーセ、サムエル、エリヤの如き皆然り、蓋何等が神と特別の關係を有して居る事を示すのである。或は又彼等は屢々神の僕と呼ばれる。彼等が神の目的の爲めに世に働く人である事を語つて居る。

以上によつて明かに預言者とは之決して將來を占ふを主眼とせし人でない事は明かである。又出埃及七章一節に「エホバ、モーセに言ひたまひけるは視よ我汝をしてパロにおける事神の如くならしむ、汝の兄弟アロンは汝の預言者となるべし」とある。モーセを神に擬すれば、彼に代りてパロに語るアロンは預言者である故に預言者とは神の代言人代辯者と云ふ事になる。

これに由りてこれを觀れば預言者とは神を見神と語り或は神の靈に滿たされ神の僕として神の意志を人に語るの人である。されど此處に似て非なる僞預言者がある。エレミヤは彼等を「エホバの口より出でざる己が心の默示を語る」（二十三章十六節）と云ふのであるが、彼等と雖も決して單に自己の心を語つて居るとは思はぬ而して彼等の中只商法的に預言するもののみでなく、眞に熱情湧き愛國の精神に滿たされて立つ所の志士もあるのである。されば何れを眞僞と區別する事は困難の樣である例へばミカヤに對する四百人の預言者、或はエレミヤに對するハナニヤの如き其れである。前者の因循姑息悲觀的なるに比して後者は壯烈にして痛快積極的樂觀的であ

る。さればよく彼等の動機に立入れば眞僞自ら明瞭である。僞預言者等は神の道德性に其預言の出發點がないのである、故に非倫理的であり又狹隘なる國家主義である。眞の預言者固より愛國者である、國家を思ひ同胞を愛すればとて懸命に人のいやがる預言もこうするなれ、されど彼等は神の義にどこ／＼までも絶對の權威を認むるので之に服從せざる國民は如何に特選の民にても滅亡する事を主張して憚らず、決して僞預言者の王や民の意を迎ふるに汲々たるが如きでないのである。

故に預言者は(一)神を見或は其默示を得るの人である。彼等は神學者ではない、故に其宗教的觀念に多少矛盾せる所もあるかも知れない。されど彼等は活ける眞の神に接するのである。さればよし理論的には不完全に神を見るといへど、其活ける力に觸るゝのである。(二)神の道德性を高調するの人である正義を無視して國家の物質的繁榮のみ夢みて居る愛國者でもなければ、單に儀式法典によりて神の守護を得ると信ずる祭司でもない。(三)語り出づる人である。人の世に不平をいだひて山里に遁がるゝ隱者でもない。神の永遠の目的を現社會に實現せんが爲めに論じ語り主張するの人である。故に彼等は現社會に何等關係なき遠き將來を預言して得々たる者ではない。若し將來を預言すべくんば立處に現在と密接なる關係ある將來でなければならぬ。彼等に確たる來世觀はない、否其は彼等の當面の問題でない。神國の理想を今現世に建設せねばならぬ。こは以て彼等の預言が如何に其歷史的背景と關係あらねばならぬかを示し從つて彼等の年代をも概ぼ定むる事が出來る所以の一つである。

勇氣あること、素直なること、情あることは人物を飾る最大のものなり。

彙報

○東京基督教女子青年會

バザー開催　去る六月號報告の通り東京基督教女子青年會事業費の爲め開催のバザーは來る十月十四日（土曜日）正午十二時より午後六時迄神田北神保町十四なる當女子青年會館に於て催す事に決定し會費金は二拾錢にて餘興及び茶菓の饗應等もある都合にて目下準備中なり諸姉相誘ひ合され揮つて御來會を乞ふ尚本會の事業に同情の方々は各自御隨意の御寄附を希望す品物ならばバザー開催日より一週間前に當館迄御送附願ひたし。▲**新館一週年紀念**　來る十月中旬頃新館一週年を紀念し、感謝祈禱會を催す豫定なり。▲**諸組開始**　從前の通り英語及び生花の二組は九月より始め。來る十月よりは體操、佛語、料理等の諸組を開始す。尚聖書研究會には出來るだけ多數の出席者あらんことを希望す。▲**女子學生講演會**　去る七月十七日（日曜日）女子青年會館に於て女子學生講演會を催す。講師は此度歸朝せられたる總幹事河井道子女史にて「精神上の經濟」なる題の下に學生諸姉に最も有益なる講話ありたり、出席者凡そ三百餘名女子英學塾、青山女學院、東洋女學校、女子學院、第一高等女學校の諸姉を網羅し近來になき盛會なりき。

○青山女學院青年會

本會は宗教部、仕事部、社交部、販賣部、音樂部の五部より成り其内宗教部は更に傳道、集會、矯風、慈善、勸誘の五部に分かれて居ります、主に働く事は宗教部で毎日曜日の夜宗教委員が集まり集會或は其他の計畫をたて其爲めに祈ります講演會等も本部で定めます、本會會員凡そ貳拾三名は日曜學校を教へて居ります、毎金曜日午後にはミスチャペルの御指導の下に教授法研究を致して居ります、終に皆樣に申上げ度事は昨年の修養會に參つた者が皆樣の御報告を伺ひ仕事部販賣部を作り其御蔭で本年の代表者は例年より多く出席する事が出來た次第を深く御禮申上げます。

（小林きみ報告）

○弘前女學校青年會

各部の働を略して申上げますと第一、傳道部及聖書研究部。信者、未信者求道者を合せて六組とし信者は之が組長となつて導く又一ヶ月一回放課後牧師を招き生徒の質問に應じて頂く或は毎月一回青年會の祈禱會を開き校外の方に宗教的の御話を願ふ一年間に受洗せし者二十一名あります第二、社交部。未だ微弱で新入生の歡迎會及び卒業生の送別會を致したに過ぎません、第三、仕事部。小兒洋服、帽子、ネクタイ、前掛、涎掛、ペンフキ、風俗人形、栞、寫眞挾み、袋物、ハンケチ、造花等を造り可成高價に買つて頂きます又三月卒業式の折御料理御菓子等を造り來客に賣つて資金を得ました。

消息

○ミス、ベーカー（横濱女子青年會幹事）　母堂病氣にて俄に歸米。

○多賀艷子　八月二日中村氏と結婚。

○山田琴子　六月米國バッサー大學卒業、七月歸朝目下神戸女學院教授。

○齋藤文子　九月九日組合教會員なる上海副領事岸倉松氏と結婚十四日上海に赴かる、住所は支那上海日本領事館氣付。

○横澤つぎ子　九月十四日ミス、ベーカーと同船にて渡米、本部幹事ミスレーガンの母校なるカロラド大學へ入學の筈。

○伊藤菊子　横濱女子青年會にて働かれし同姉は去月新宿教會に於て結婚式を擧げらる。

○上野梅香　武田牧師と結婚せられ目下水戸市に住居、

○出丸よね子　川俣女工休養所主任なる同姉は近頃祖母を失はれし由。

○新みね子（旧遠藤）　同姉は新氏と結婚、目下兵庫縣武庫郡御影字柳五八一に居住。

○渡邊ゆり子　今春アラム大學卒業、八月下旬河井幹事と同船にて歸朝。

○中島妙子　同姉は父君を失はれ目下弟君と千葉縣千葉町富士見町一五一〇に住居。

○湯田きみの　暫く郷里會津にて靜養後信州上田梅花幼稚園保姆傳習所に教鞭をとらる。

○岩澤とき子　今回米國カランビヤ大學を卒業なされマスターの學位を得て九月十二日目出度歸朝、普連土女學校に教授。

○新幹事來朝　ミス、ガンター九月十一日本部幹事として來朝。

早く、速に、急に、

來る十月十四日神田の女子青年會館のバザー入場券（金貳拾錢）は女子青年會事務所でお求め下さい。

おとづれ

○鳴く蟲の聲を聞きつゝ夜も御座候

鹿兒島　青山英子

昨日の當地新聞紙上に去る三十日横濱入港のペルシヤ丸にて河井先生御歸朝遊ばされ候趣き相見え申し誠に御懐かしく存じ申候、定めて御恙もなく渡らせられ候事と萬々御慶び申上候私事も丈夫に暮らし居候まゝ何卒御安心下され度候、先生の御消息青年界誌上に近頃は無之候まゝ實に如何遊ばされ候事かと御案じ申上げ御幸福にあれかしと日夜御祈り申居候　私事も其内には御對面申上ぐる折も候はんと折角樂しみに相待ち居候寒き日にも夏の夕月を眺めても思ひ出候は東京女子青年會寄宿舎時代の事にて先生は今頃何時どの地に月を眺め給ふらんと鳴く虫の聲を聞きつゝ祈りし夜も御座候。

○「茅ヶ崎驛長汽車にはね飛さる」と見え候

千葉　中島妙子

去る七月六日、父事、職務執行中不慮の死を相遂げ何の苦しみもなく唯頭に二錢銅貨大の傷の痕ひしのみにて直ちに神の御手にすがるべく安らかに眠り申候「茅ヶ崎驛長汽車にはね飛ばさる」との見出しの新聞に見え候時猶一しほに悲しき涙湧き出で申候、然し私は未だ幸に候ひき。若しかく女子青年界を戴かずに居り候ひしならば今頃は如何になり居りしかと思ふも空恐ろしう存ぜられ申候。弟事本年十九歳、千葉醫專に勉學中の事とてその卒業迄はと當地に一同引き移り申候、今は唯神の御心のまゝに限りなき御恩寵の下に働かんのみに御座候、誠に延引ながら本年度分の會費金御送り申候間何卒御受取り下され度候、會費も御送り申さぬに常に毎號滯りなく「女子青年界」御與へ下され候段深く御禮申上候。

○その御指圖に從ふやう決心仕候

横濱　成田千代

私事故郷を去りて働き傍ら妹の勉強を助くる事を得候は實に青年會よりの多大の賜と深く感謝致し居り候、如何なる事にても私の小さき心と鈍き手足にても出來得る事御座候はゞ必らず御手傳申上げ度候まゝ御使ひ下さるやう御願ひ申上候、先きに父を失ひ候者故希望の幾分を犠牲に致し候も神は私を此處まで御導き下されたる事と存じ御旨の何處にか存するをきゝてその御指圖に從ふやう決心仕り候、やがて妹も會の片端丈けにても御手傳ひなし得んかと樂しみに致し居り候まゝ何卒先生方の御指導をねぎ上候。

○都よりの御便りは心に何物かを與へ候

弘前　澤口つや

過日新聞紙上にて河井先生の御歸朝を承知仕り蔭ながら御祝ひ申上候種々日本の爲め殊に我々婦人の爲め御骨折等しく感謝に堪へざる次第に候、私事英學塾の生活を終へ去年四月當地に參り候只今は

學校にも教授にも慣れ申候て樂しく過ごし居り候、種々の事に生徒が精神的缺乏を感じ居るを見ては事に應じ折にふれて給はりし賜物を分け與へ度くと望み居り候、先日多川長老及び小島牧師來弘され聖公會教會にて御說教有之候刺戟少なく眠り勝なる靈も呼び起されよき賜物頂き申候凡て都よりの御便は心に何物かを與へ申候誠に新に日に生くる女になり度と切望致し居り候間心弱く願はざる惡に陥りがちなる子の爲め御祈り下され度御願ひ申上候。

○神の愛に活きんと努力して居る私

津山　陶山よね

妹から河井先生の御歸朝を色々きゝました彼女が私の代理に參りて吳れました、今年修養會に參りましたのも先生に東京で御目にかゝれるかと思つて參りましたが未だ御歸朝になりませんで失望致しました、津山で唯世の「敎授者」たらずして眞の「敎育者」になつて世の罪を知らない子供等に接するに如何にしたらばと云ふ事も知りました、先生私は此所に居る間全力を盡くして先生方や青年會で受けた情深い親切を子供等に與へんと努力致して居ります、時々は個人と接して話したり致して居ります眞に生徒の愛を感じ己を捧げる覺悟で御座います、先は何卒こんな田舍に居て神の愛に生んと努力して居る私を覺えて下さいまし、敎會は組合敎會で轉會いたしました却々徹々たるもので御座いますこの九月からは責任を以て大いに働かうと決心して居ります青年會の會長でありました事が今頃になつてどんなに私を助けるか分りませんほんとに感謝して居ります。

▲私も出來得る限り出席致度き考に候

兵庫　新みね子

私事無事に只今は兵庫縣武庫郡御影町字柳八五一に家庭を持ち不足勝にも暮らし居り候間御休神下され度候、當地には昨年末移り參り候事なれば只今にては大分土地にも馴れ申候、然し氣風も風習も違ひ始めは誠に厭に相成申候、かく東京を離れては御久方振りに先生にも御目もじ叶ふや計られず又親兄弟とも打ち語ふ折もなく全くつまらなき事に候、されど主人なる者の誠に親切に候まゝまづ樂しく家事に從事致し居り候其上二三ヶ月以前より姉が矢張り主人轉任と共に直ぐ隣村なる住吉村に移り來り候間此頃は話相手も出來誠に幸福に存じ候、當地にも阪神婦人會と云ふ會御座候て一ヶ月一回集會を催し大阪より宮川先生の御出張を仰ぎ聖書の御講義御座候、私も出來得る限り出席致し度考に御座候先生方にも當地御來遊の節には何とぞ御立寄り下され度願ひ上候普連土女學校出身の方々も此阪神間に數名居られ候間折々御訪問して種々昔の學校時代を物語り候これを樂しみに致居候。

○入會申込　(本部報告)

森　良子

○會友會費領收　(本部報告)

金貳圓也

奥山　ます(大正四ノ六―七ノ五)久留すみ子(大正四ノ七―六ノ六)

加藤 久子(大正五ノ十ー六ノ九)
金參圓也 荒井 秀子(大正三ノ十二ー六ノ十一)
金五圓也 矢野 靜枝(大正二ノ一ー六ノ十二)
金壹圓也
岡本みどり 大正五ノ四ー六ノ三)石塚 忍(大正六ノ五ー七ノ四)
淺井 はる 大正五ノ一ー五ノ十二)島田 はつ(大正五ノ五ー六ノ四)
山田 滋子(大正五ノ十ー六ノ九)井上 玉枝(大正四ノ十二ー五ノ十一)
林 良子(大正五ノ九ー六ノ八)加藤 桃代(大正五ノ十一ー六ノ十)
中島 妙子(大正五ノ一ー五ノ十二)吉田 晴江(大正五ノ三ー六ノ二)

○雜誌「女子青年界」代金領收

金八拾錢也
吉田まつ代(大正四ノ十ー五ノ三)石原 幸(大正五ノ一ー五ノ三)
井上 文子(大正五ノ一ー五ノ二)紅松 文(大正五ノ一ー五ノ三)
吉川 いく(大正五ノ十ー六ノ九)神戸女學院(大正五ノ二ー六ノ一)
女子學院(大正五ノ二ー六ノ一)松本 かな(大正五ノ七ー六ノ六)
松井 篤(大正五ノ三ー六ノ二 安東縣婦人會(大正四ノ七ー[illegible]ノ六)
藤田 とき(大正五ノ七ー六ノ六)島村 キヨ(大正五ノ六ー六ノ五)
小川 光(大正五ノ八ー六ノ七)清水みづえ(大正五ノ七ー六ノ六)
渡邊 ふみ(大正五ノ十ー六ノ九)石川 貞(大正五ノ九ー六ノ七)
井田 貞(大正五ノ九ー六ノ七)西郷 靜枝(同 上)
小林 とし(同 上)
金貳圓四拾錢也 茂木春(大正四ノ七ー七ノ六)
金壹圓五拾錢也 東埜子(大正四ノ三ー六ノ二)

金參圓貳拾貳錢也 原田壽(六月分雜誌四十六冊代)
金壹圓貳拾錢也 淺岡絹(大正五ノ七ー六ノ六)
金壹圓也 佐藤まさ(大正五ノ七ー六ノ六)
金六拾參錢也 黑澤みつ(大正五ノ七ー六ノ二)
金七拾錢也
三笠 於幸(大正四ノ十ー五ノ九)馬場 ハル(大正四ノ七ー五ノ六)
高橋 愛子(大正五ノ三ー六ノ二)清水 種子(大正五ノ二ー六ノ一)
長尾 咲(大正四ノ三ー五ノ二)
金四拾錢也 寺本照子(大正五ノ九ー六ノ二)
金貳圓貳拾錢也 和久山きそ(大正四ノ一ー六ノ一)
金貳圓八拾七錢也 原田壽子(大正五年五月分)

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正五年九月廿八日印刷納本
大正五年十月一日發行

發行所 神田區北神保町十四番地 日本基督教女子青年會
發行兼編輯人 神田區北神保町十四番地 河井道子
印刷人 芝區櫻田和泉町七番地 前川吉次郎
印刷所 芝區櫻田和泉町七番地 三成舍

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XIV — OCTOBER, 1916 — NUMBER 9

Miss Michi Kawai, National Secretary of the Y.W.C.A. in Japan, arrived in Yokohama, on August 30. During her year and a half of absence in America, she attended the National Training School of the Y.W.C.A. in New York, graduating there in June of this year, and spent much time in finding out the condition of Japanese women on the Pacific Coast. She also attended Summer Conferences in Canada and the U.S.A. and spoke very often, especially on the subject of women of modern Japan. It is largely through Miss Kawai's efforts that money was given in America to complete the Tokyo Y.W.C.A. Land and Building Fund, and that three new foreign secretaries were sent to Japan this autumn. The salary of one of these secretaries is being paid by four Japanese business men in New York city. Miss Kawai also had much to do with creating interest both in New York and California, in the Japanese women coming every year to the United States to make their homes there. As a result of this interest, the Y.W.C.A. on the Pacific Coast has been able to start special Immigration work there for all women from other countries, but especially at the present time for Japanese and Chinese women and girls. Miss Sarah Ellis, for so long a member of the National Committee of the Y.W.C.A. in Japan, and member of the Friends' Mission, is now at Angel Island in San Francisco, as Immigration Secretary for the Y.W.C.A. There she meets the girls as they enter America, and helps them with advice and introductions to Christian women, Japanese or American, in the places to which they are going. Miss Helen Topping continues to give all her time to the Japanese Y.W.C.A. in California, and one other American Secretary is giving her whole time to the problem. A group of American women in and around San Francisco, has organized a society called the Yu Ai Kai, with the purpose of bringing American and Japanese women into closer fellowship. At a meeting of this society in the St. Francis Hotel in San Francisco, Miss Kawai spoke to an audience of five-hundred women.

The Yokohama Y.W.C.A. is about to open new quarters in a building near Sakuragicho Station, convenient to hotels and steamer-docks. Here in addition to regular Association work, will be a residence for the Foreign secretary, and rooms equipped for teaching girls about to go to America those things that they need to know,—cooking, care of the house, sewing, foreign manners and customs and ideals.

Before her trip to America, Miss Kawai divided her time between Miss Tsuda's School and the Y.W.C.A. From now on she will give full time to the Y.W.C.A. This will enable her to visit different Associations in Japan, and to help organize the new work in Yokohama and later in other cities.

Because of the illness of her mother, Miss Mary Baker, Secretary of the Yokohama Y.W.C.A. was obliged to return to America on Sept. 14. It is hoped that her mother's illness may not be so serious as was feared and that Miss Baker may return within a year's time.

With Miss Baker, Miss Tsugi Yokozawa, a graduate of Miss Tsuda's School went to study in Colorado College. She will return to help in Y.W. C.A. work.

Three new foreign secretaries have arrived; Miss Mamie Gunter to take Miss Ragan's place during her furlough, Miss Elsie Greene, and Miss Clara Hard to be appointed to local city work after two years in the language school.

Miss Yuri Watanabe once for a short time in the office of the Tokyo Y.W.C.A. has just been graduated from Earham College, Richmond, Indiana, and has returned to Japan.

各組生徒募集

左の時間により各組の教授を開始いたしました。志望の方は至急に御申込み下さるやうに願ひます。詳細のことは當事務所について御問合せを願ひます、

英語の組　月、水、金曜午後　自四時半至五時半　自七時半至八時半

佛語の組　木曜午後　自七時半至八時半

體操の組　火、木曜午後　自四時半至五時半

生花の組　火曜午後　自一時至五時

簿記の組　月、火、水、木、金曜午後　自四時半至五時半

料理の組　十一月より開始

大正五年九月

神田區北神保町十四番地

東京基督教女子青年會

【電話本局五九八番】

女子青年界第拾參卷第九號
大正五年九月廿八日印刷納本大正五年十月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可